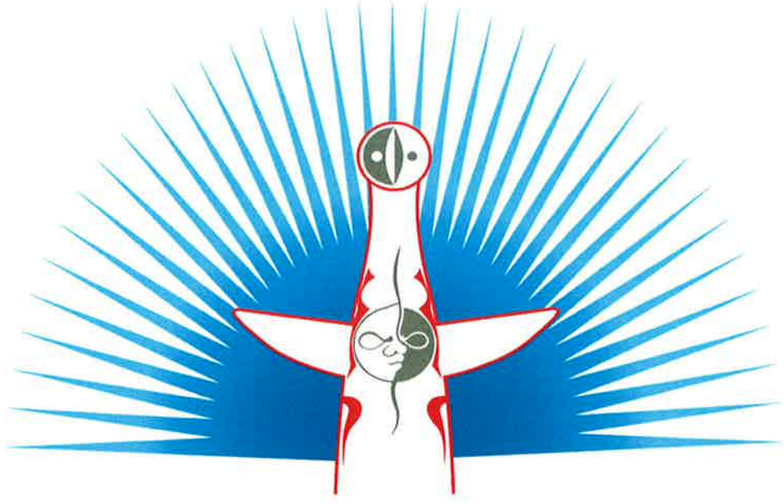
資料②

第4回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会
将来ビジョン検討案



本資料の内容構成

Ⅰ.将来ビジョンの具体案について

Ⅰ-1　作業の進捗のおさらい

Ⅰ-2　公園全体像に関する再考

Ⅰ-3　将来ビジョン中間報告　個別検討項目について

Ⅱ.公園運営手法について

Ⅱ-1　海外事例紹介（ニューヨークの公園運営手法視察の報告）

Ⅱ-2　万博記念公園運営体制(案)

Ⅲ. 事業計画について

Ⅰ．将来ビジョンの具体案について

Ⅰ-1　作業の進捗のおさらい

万博記念公園の活性化に向けた将来ビジョンについて（万博記念公園運営審議会中間報告）概要版　【府民文化総務課】

■審議の経緯

○平成 26 年 2 月 20 日　第 1 回審議会　日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン（施設整備及び運営）について諮問
○平成 26 年 7 月 14 日　第 2 回審議会
○平成 26 年 8 月 26 日　第 3 回審議会（中間報告）〈他に魅力創出部会及び緑整備部会を各 2 回開催〉

今後の予定
○H27 年 1 月審議会答申　将来ビジョン(案)
○H27 年 2 月　パブリックコメント
○H27 年 3 月　将来ビジョン策定

■万博記念公園の現状と課題

○森の育成

【これまでの目標】自立した森「都市化に対抗しても生き生きとしている森、多様な動植物と共存している森を育成」
【課　題】「樹種の少ない過密した森、林床が暗く、昆虫や鳥など生き物の種類が少ない、若い木が育っていない」

○施設の状況

【老朽化対応】 博覧会当時のインフラや施設を改修して活用、老朽化に対処するため、大規模な補修・改修が必要。
【大規模災害時の活用】 広域防災拠点、後方支援活動拠点、広域避難地に指定、災害時に適切に活用。

○利用状況

【利 用 日 】　平日の稼働率が低い。【利用圏域】　利用者の大半は万博近郊居住者。外国人観光客は少ない。
【来園の目的】「イベント等の見学・参加」が増加。「花の観賞」「樹木の観賞」を目的とする利用者も多い。
【ボランティア】 園内で植物管理や生物調査をNPOが実施。庭園ガイドや自然観察などのボランティア団体が活動。

○公園運営

【収支状況】新たな財政負担のない形で運営する。一層の魅力向上に向け、収入の確保に努める必要。
【管理手法】公園事務所を設置し直営で運営。（施設毎に管理委託、土地貸付により民間企業等が設置した施設も存在）

■社会情勢の変化

○地球環境の保全、循環型社会の構築（生物多様性、地球温暖化、資源循環）
○訪日外国人の増加（来阪外客数の増、府としての観光立国の推進）
○少子高齢化（子どもの健全育成の場、高齢者の生きがい・健康づくりの場）
○共助社会（NPO・ボランティア）
○ライフスタイルの多様化（子ども、高齢者、障がい者が文化・スポーツを楽しむ）

■これからの万博記念公園

基本理念　人類の進歩と調和

・大阪万博の跡地を「緑に包まれた文化公園」にするという理念の下、「人類の進歩と調和」を具現化するべく、万博機構は森林の育成、文化の発信に取り組んできた。
・「人類の進歩と調和」というテーマは普遍的テーマであり、大阪府としても、万博記念公園の基本理念としてあらためて設定する。

目標像

- 人と自然の調和
- 世界への文化と美の発信
- 人々の交流と創造

基本方針

基本理念と基本方針を実現していくための公園の在り方

◆地球環境保全・再生に貢献する公園
（生物多様性、地球温暖化防止、資源循環）

◆緑の中で人々が憩い活動し美に感動する公園
（人と自然・芸術の触れ合い）

◆国内外から多くの人が訪れる公園
（観光集客、都市魅力の創出、万博遺産の継承）

◆文化と美を体験・創造し発信する公園
（日本文化、芸術、民族学）

◆健康づくりを支援する公園
（スポーツ、レクリエーション）

◆多様なライフスタイルを実践できる公園
（子育て、生涯学習、ボランティア）

◆全ての人が安心して快適に利用できる公園
（高齢者、障がい者、子ども、防災拠点）

具体的な取組み例

①万博公園の骨格となる緑を継承維持
②豊かな森の育成　/　③水系の保全と活用
④資源循環型社会の推進

①太陽の塔の改修、シンボルゾーンの重点整備 / ②万博記念公園駅前周辺地区の活用
③日本の文化と美を楽しむ質の高い日本庭園の整備
④来園手段・園内移動手段の充実 / ⑤観光客の憩いの場の整備
⑥南側ゾーン活性化事業との連携・活用

①交流と活動の基盤となる美しい景観の形成
②人々の関わりによる森の育成、多くの人々が楽しむ森作り
③日本の文化と美を楽しむ質の高い日本庭園の整備
④日本の誇る園芸文化の発信 / ⑤高品質な芝生広場の育成

①シンボルゾーンを太陽の塔を核とした広大な広場として整備
②日本の文化と美の体験の場の整備
③民族学博物館との連携強化および大阪日本民芸館の再整備と高度活用
④イベントによる観光集客、万博からのメッセージの発信

①万博記念公園に相応しいスポーツ施設の再編整備
②公園東口駅前周辺の整備
③広域規模の大会を開催
④文化とスポーツが連携するイベントの実施

①多様なプログラムの提供
②プログラム提供拠点となる施設の整備 / ③ボランティア人材の養成
④学校行事での利用促進

①来園手段・園内移動手段の充実 / ②トイレ・休憩所の整備
③ユニバーサルデザイン / ④大規模災害時の適切な対応

【広報】
○IT の活用
○大阪万博の遺産を紹介するガイドツアー
○国内外に向けた広報の強化
○園内施設のネーミング募集等

【事業者誘致】
○公園の質の維持向上、魅力づくりと収入の確保のために外周道路沿いの土地等を民間参加により、さらに活用する。

【運営手法】
○民間活力を取り入れた運営体制の検討
○利用者サービスの向上による公園の魅力形成
○クラウドファンディング等による参加型公園づくり

■目標年次

平成 32 年（2020 年）を節目とし、平成 42 年（2030 年）とする。長期的に行うべき森の育成は平成 82 年（2070 年）を目標年次とする。

将来ビジョン中間報告を受けて共同企業体提案事項＜基本的な考え方＞

電通・ＤＭＩ・日本総研企業体提案事項

基本理念：　「人類の進歩と調和」

目標像：
①「人と自然の調和」
②「世界への文化と美の発信」
③「人々の交流と創造」

基本方針

- ①地球環境保全・再生に貢献する公園
- ②緑の中で人々が集い活動し美に貢献する公園
- ③国内外から多くの人が訪れる公園
- ④文化と美を体験、創造し発信する公園
- ⑤健康づくりを支援する公園
- ⑥多様なライフスタイルを実践できる公園
- ⑦全ての人が安心して快適に利用できる公園

公園のビジョン策定にあたり挑戦していきたい課題

70年万博のテーマ「人類の進歩と調和」を基本理念として継承し、ともすれば経済至上主義の波にのみ込まれかねない高度成長期の真っただ中に、自然への畏敬の念をもって自然林再生というカタチで誕生した万博公園。その理念は21世紀を迎えた今も色あせない、時代を先取りした明示的かつ先駆的な理念です。大阪都心部の数少ない緑地として先人達が残してくれた価値あるこの公園を大阪の魅力づくりの社会資本として長きに渡り守り受け継いでいけるビジョン策定を行います。都市の緑化計画“ガーデンシティー”を海外からの観光客を呼び込むための中心政策として掲げたシンガポールの都市ブランディングの成功からもみるように「緑・グリーン」は21世紀の都市のブランディング（魅力づくり）に欠かせない重要なテーマです。大阪の社会資本としてこの公園が50年先そしてそれから先も自立性と持続可能性を維持していくための集客と収益を高める活性化方策を策定します。

先人達が万博公園に込めたメッセージをしっかり踏襲する
狙い：独自性の向上（普遍的で豊かな文化風土をつくる）

20世紀型大規模設備投資による都市開発モデルからの脱却
狙い：参加性の向上（企業・団体の投資意欲を高める）

人の叡智と手によって鮮度を保ち続ける仕組みづくり
狙い：持続性の向上（支出を抑え長きに渡り繁栄していく）

基本理念と基本方針を実現していくための公園の有り方

万博公園のシンボルである太陽の塔は日本土着の文化を切り拓いていく生命力をカタチにしたモニュメント。このシンボルの持つ意思を根底に21世紀の日本そして世界に求められる公園像を制定します。そこは日本土着の自然観・美意識・寛容性を内包し、世界中の人がその森からのご利益を求め集い交歓し元気になって帰る、21世紀の鎮守の森。その森の中心に佇む太陽の塔は分け隔てなく訪れる人を受け容れパワーを与える。その周辺ではそこに集う人によって賑わう門前町が栄え、その門前町からのお布施によってその森が守られていく。宗教なき時代の人々の拠所として日本の風土に根差した求心力高い循環型の公園として、公園の資産の再編集・発信を検討していきます。（あくまでも仮説ですので実際は府と協議の上検討をすすめます。）

コンセプト

生命力（いのち）をチャージする場所

万博記念公園はたくましい生命力のシンボルである「太陽の塔」を象徴とした
生命力（いのち）をチャージする場所

自然文化園や日本庭園の豊かな緑は、生命力の偉大さを私たちに伝え
民族学博物館や民芸館は 生命力がつないできた尊い文化を伝え
スポーツを行い 観戦することは 生命力が力強く鼓動する瞬間を実感させる
そして太陽の塔が たくましい生命力をこれからもこの地に約束してくれる

人々が生命力（いのち）をチャージするために
この地に集い 愛着を持ち 自律的に育まれる場所になる---
それが 21世紀の万博記念公園です

万博記念公園のビジョン策定＝大阪府のブランディングそのもの

かつて万博が先進国の仲間入りのシンボル事業であったように世界一級都市大阪のシンボルとして世界そして日本中の人々から愛され続けられる自然観光公園としての活性化方策を立案

中間ビジョンおよび各部会審議事項

将来ビジョン中間報告		具体的活性化策案			
基本方針	具体的な取組	（ア）国際観光公園としての機能強化	（イ）広域拠点公園としての機能強化	（ウ）地域共生公園としての機能強化	他検討事項
1.地球環境保全・再生に貢献する公園	①万博公園の骨格となる緑を継承維持 ②豊かな森の育成 ③水系の保全と活用 ④資源循環型社会の推進				
2.緑の中で人々が憩い活動し美に感動する公園	①太陽の塔の改修、シンボルゾーンの重点整備 ②万博記念公園駅前周辺地区の活用 ③日本の文化と美を楽しむ質の高い日本庭園の整備 ④来園手段・園内移動手段の充実 ⑤観光客の憩いの場の整備 ⑥南側ゾーン活性化事業との連携・活用				
3.国内外から多くの人が訪れる公園	①交流と活動の基盤となる美しい景観の形成 ②人々の関わりによる森の育成、多くの人々が 楽しむ森作り ③日本の文化と美を楽しむ質の高い日本庭園の整備 ④日本の誇る園芸文化の発信 ⑤高品質な芝生広場の育成				
4.文化と美を体験、創造し発信する公園	①シンボルゾーンを太陽の塔を核とした広大な広場として整備 ②日本の文化と美の体験の場の整備 ③民族学博物館との連携強化および大阪日本民芸館の再整備と高度活用 ④イベントによる観光集客、万博からのメッセージの発信				
5.健康づくりを支援する公園	①万博記念公園に相応しいスポーツ施設の再編整備 ②公園東口駅前周辺の整備 ③広域規模の大会を開催 ④文化とスポーツが連携するイベントの実施				
6.多様なライフスタイルを実践できる公園	①多様なプログラムの提供 ②プログラム提供拠点となる施設の整備 ③ボランティア人材の養成 ④学校行事での利用促進				
7.全ての人が安心して快適に利用できる公園	①来園手段・園内移動手段の充実 ②トイレ・休憩所の整備 ③ユニバーサルデザイン ④大規模災害時の適切な対応 ⑤アプローチの改善				

基本理念と基本方針を実現していくための公園の在り方：生命力をチャージする場

① 緑の思想

④ 水（水系）

F
自然文化園
生命力が高まるナチュラルでヘルシーなライフスタイルの発信スポットとしての環境の整備

B
② シンボルゾーン
太陽の塔・お祭り広場
太陽の塔を現代の聖地とした名刹シンボルゾーンの整備

A
③ 日本庭園
日本庭園
日本庭園の資産を再編集し海外からの評価を高める

D
公園西エリア
宿泊者限定文化体験プログラム付癒され生命力を養う隠れ家的高級リゾート旅館誘致

C
大阪日本民芸館・公園東エリア
日本の生活様式を輸出するMINGEIの聖地としての機能強化整備

E
国立民族学博物館
MINPAKU x art/music/fashion 文化のエネルギーが響き合う民博コレクションの創設

G
公園全体外周・公園東エリア
トライアスロンを中核とした高級スポーツサロン誘致新たな社交場として発信

H
公園南地区
関西随一イケてるエクストリームスポーツの“聖地”としての機能を付加

I
駅前周辺エリア
ナチュラルでヘルシーなライフスタイルを提案するスポーツ関連ブランドの旗艦店誘致

K
人々の創造性を発散させる場
公園内の自然と文化豊かな環境の刺激をうけながら世界中の最先端の叡智と繋がり創造力を発散させアイディアを具現化していく場づくりへ。府民の構想力と具現力の力を培う場へ。

J
万博公園を守り、育み、発信する
「万博公園パークレンジャー」（仮）
府民が積極的に万博公園を活用していくためのサポート組織。教育プログラム・人材マッチング・プログラム開発などの各種サポート、広報発信支援などを行う。また企業や教育機関とのマッチング機能も果たしスポンサードの獲得教育機関や民間企業に対しての人材の提供などの相互支援を行う。

⑤ 交流と創造

⑥ 外周の活用と保全

⑦ 移動の円滑化

⑧ 管理

⑨ 広報

⑩ 事業者誘致

⑪ 運営体制

① ～⑪ 緑部会審議事項　　A～J 魅力部会審議事項

Ⅰ－２　公園全体像に関する再考

公園が目指すべき全体像について

審議会でのご意見・海外視察・事業者・他識者等のヒアリングを経て

様々な貴重なご意見を頂戴しました

そのご意見を踏まえ

公園の全体像に関わる提案内容の修正を検討しています

「跡地」という概念は捨て、**未来感のある価値観をもった理想地**をめざすべきではないか。

豊かな自然もいつか開発の手が延びると、破壊されていく。そのような開発圧力に負けない**スポンサードシステムを「ネイチャー・コミッション」という枠組みで**考えられないだろうか。

梅棹先生は教育はチャージで文化はディスチャージだとおっしゃった。公園に文化をつくる**ディスチャージの要素も必要**である。

公園管理には多くの企業のサポートが必要だろうが**「企業と対話しながら新しい価値を創っていこうという試み、その実践の場」**にならないだろうか。

今のスポーツ振興には思想が欠けている。思想や哲学がないとスポーツ文化が育たない。**スタジアムやクラブハウスにおカネを掛けるのではなく、思想やビジョン・夢におカネが集まる仕掛けが必要。**

環境教育センターが万博公園の中にあったらどうか。そこは**「都市生活の中にいかに自然を取り込んでいけるか」**を考える場所でもあり「人工の自然」だが全国の「本物の自然」のゲートウェイにもなる。

文化

地域共生という話も大切であるがあるが**高次元で文化を維持していくにはプロが管理するものと市民が参画するものとをきちんと線引きしていく必要がある。**素人が入り込むと価値の値崩れがすすむ。

自然

企業にも人間性を回復する仕事というものが必要。**都会の中にあって、人間性が回復できる場所**が求められている。

万博公園が目指している**2070年を考えれば大量生産・規模の経済からの脱却**、全世界のネットワークでの生産消費というトレンドに目を向けてもいいかもしれない。テックショップ機能を公園に持たせ**いろいろなモノづくりが行われている**というのはどうであろうか。

創造

自然は豊かで心地よいというだけではなく、実際に生産性が向上するという成果が報告されている。**自然に学ぶ場所にこそ、イノベーションやクリエイティブは生まれるのではないか。**

万博キッズ世代にとって**万博公園はクリエーションの源泉**となっている。そういった機能性を継承していくことが文化創造につながり公園の価値を高めていくことになると思う。

公園全体の目指すべき姿について
（ヒアリングより）

調査検討業務を踏まえた
公園全体像に関わる共同体提案事項

① 基本理念と基本方針を具現化して行くためのコンセプト
「生命力をチャージする公園」の再考
②“緑“を主役にした「パークスカウト」機能の強化
③ 未来を見据えた創造性を高める機能の追加

＜修正に至った課題意識＞

○ 提案コンセプトである「生命力をチャージする公園」では太陽の塔に込められていた主題である“人間の創造性“（discharge発散）の要素が弱かったためその要素を加味
○ 公園の魅力化方策が施設中心の賑わいづくり偏重であったため、公園の主役である“緑”に重きを置き、“緑”が公園の魅力づくりの中心として永続していく方策を検討

Ⅰ-2-a. コンセプト「生命力をチャージする公園」の再考

Ⅰ-2-a. コンセプト「生命力をチャージする公園」の再考

目標：21世紀の「人類の進歩と調和」を実現する公園

生命力をチャージする公園

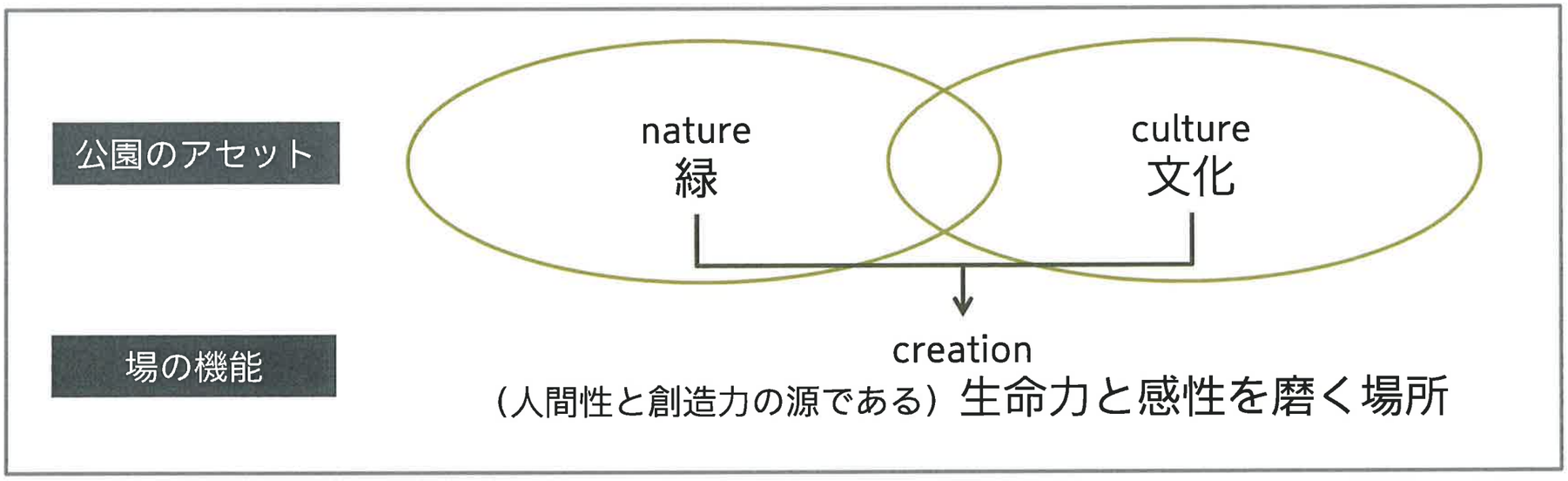
＜課題＞

チャージ（インプット）が主題となり従来の公園のメッセージである
人間の“創造性”（アウトプット）に関する要素が欠如している。
またその根拠となる公園のアセットへの言及がなされていないため
守り継承すべき公園の価値が共有されにくいコンセプトになっている。

修正案

（高いレベルで維持管理されている）緑と文化の中で生命力と感性が磨かれる公園

キーワード：ネイチャー・カルチャー・クリエーション



21世紀の「人類の進歩と調和」を実現

上記を体現するにあたりこれまでの共同体の提案に欠けていた
①緑の価値を守る機能　②創造力を発散させる機能　を新たに検討

Ⅰ-2-a. コンセプト「生命力をチャージする公園」の再考

緑と文化の中で生命力と感性が磨かれる公園

高い志のもと唯一無二の世界に誇れる公園文化が体感できる場として魅力の強化を図る

本物の森を追求した都心近郊のオアシス

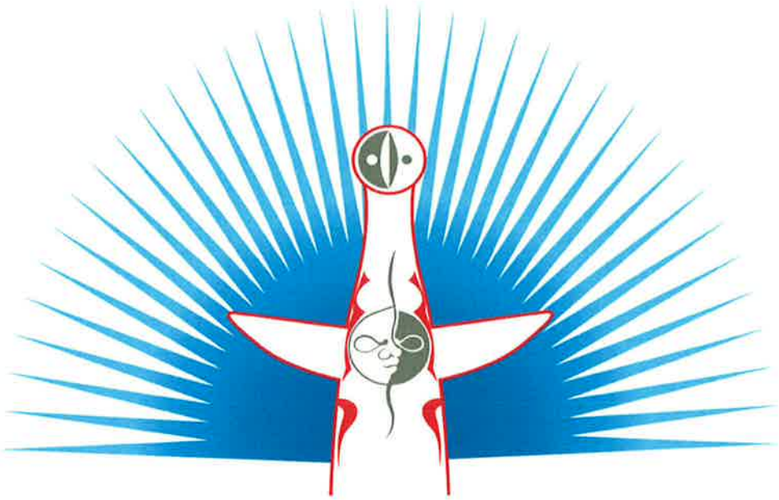
〇都心の近くにして本格的な森づくりを追求した豊かな緑の環境を2070年という長期的視野のもと育成

世界に誇る名刹としてのシンボルゾーンの整備・発信

〇太陽の塔の迫力が活かされるべく周辺の緑地をシンボルゾーンとして整備、また世界に発信できるスケールの大きな文化イベントを検討

世界級のスポーツ競技に触れ仲間とともに共振する場へ

〇世界レベルの競技に触れる機会をつくり万博公園から世界に羽ばたいていく次世代のアスリートを育成する環境を整備



日本文化の真髄が体験可能な本格的な文化体験の提供

〇テーマパーク的な文化体験に留まらず本質を求める旅行者の目に叶う本格的な呈茶プログラムや懐石料理を提供

ユニークなの公園体験が叶う宿泊体験の誘致

〇宿泊者限定、公園内の施設と連動したユニークなプログラムが利用可能な、他にはない宿泊体験を可能とする宿泊施設誘致を検討

世界が注目する日本の生活様式の発信拠点へ

〇自然環境との調和、匠の技術、丁寧な暮らしなど日本の生活哲学を発信する文化的イベントを民芸館の資産を活用して行っていく

Ⅰ-2-b.「パークスカウト」機能の強化

＜参考事例＞セントラルパーク視察/ヒアリング

視察概要
・日時：2014年11月5日　9時～12時
・場所：Central Park Conservancy Office

CENTRAL PARK CONSERVANCY
・President&CEO **Douglas Blonsky, RLA, ASLA(中)**
・Vice President for Development&Visitor Experience **Terri Coppersmith**（左）
・Director Center for Urban Park Management **Maura Lout**（右）

セントラルパークの価値とは？

■奇をてらった公園作りは行っていない。
丁寧な「日々のメンテナンス」の積み重ね、そして緑に対する最大限のリスペクトを通じ緑の美しい居心地のよい公園を保ち続けていることがセントラルパークの価値。

■セントラルパークを支える周囲の住民も、豊かで美しい自然というセントラルパークの価値を理解し、公園運営金を寄付するという形でサポートをしている。

■公園が目指すべき目標は、“長期的な視点であればあるほど”、「普遍的な価値」を保つことができると考えている。

【1】49エリアの区画単位での管理システム

**公園全体を49エリアに区画。各エリアに専属の担当者を配置して、エリアごとに植生や景観管理を行う。
エリアの担当者は、GPS端末に植生の状況の記録を行い、管理体制を徹底している。**

メリット①

エリアの担当者同士が切磋琢磨するシナジー効果やエリアを越えた協力体制により、レベルの高い管理が維持できる。

メリット②

エリア担当者が地域住民と顔なじみとなり、住民の公園への愛着度を高めている。また住民からの目線がモチベーションUPにつながっている。

【2】地域周辺住民との対話　/“good stewardship”啓発

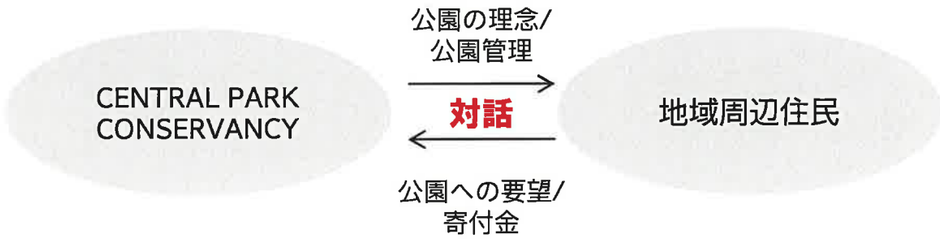
**公園の運営を寄付金(財源の75%)や労働というカタチで市民に提供してもらいながら、市民と共におこなっている。
（寄付金の内、約7割は公園周辺住民の個人からのもの）
「寄付」という形を取るため、時には地域周辺住民の会合にも参加し住民との対話を重視している。**

メリット①

住民へ公園の理念を啓蒙し、公園を利用する側にも公園の価値を守っていく意識を持ってもらう機会となる。

メリット②

定期的に住民の声を聞くことで、地域住民からのサポートを受け、長きに渡って維持できる公園を目指すことができる。

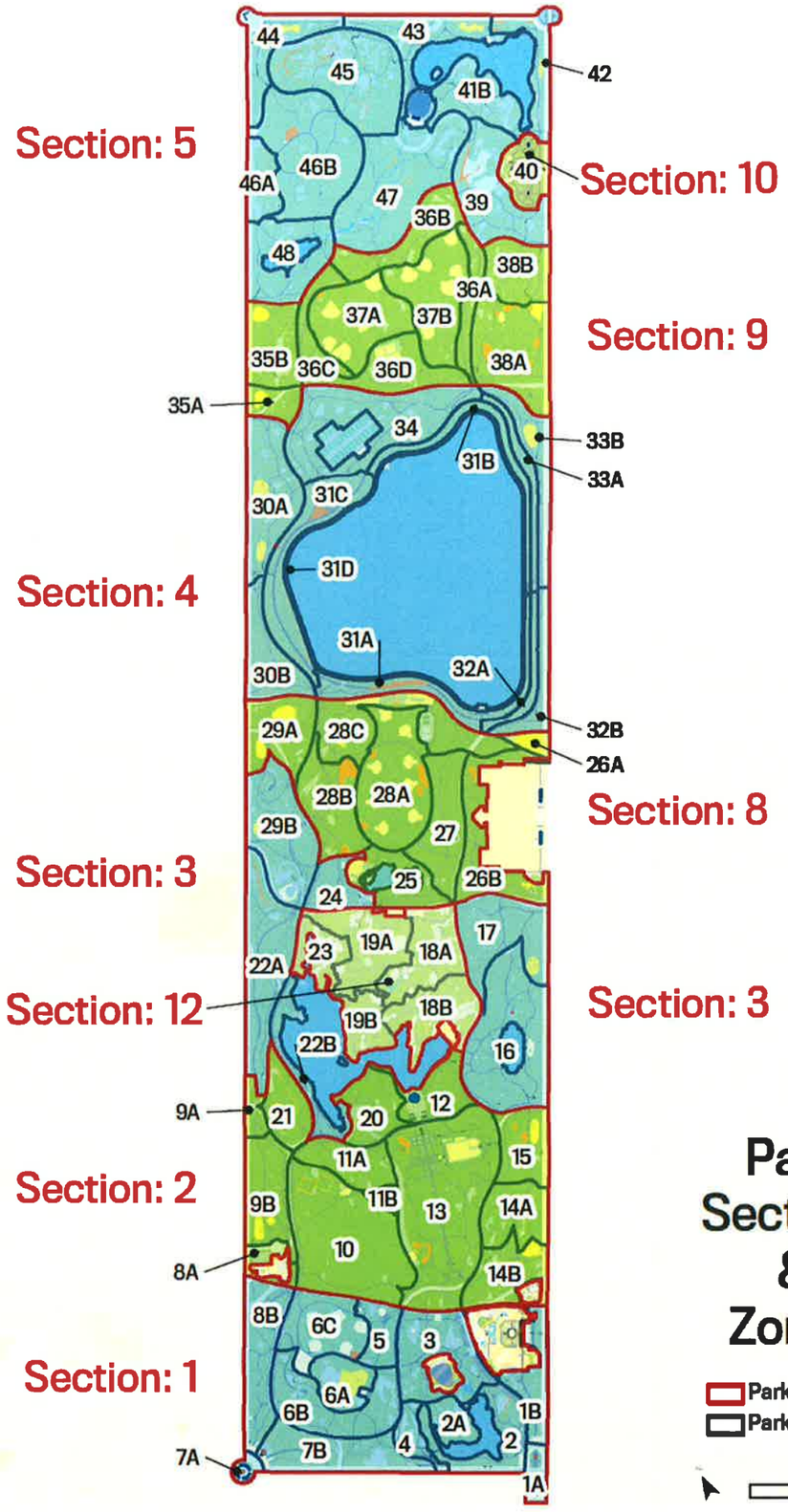


＜参考事例＞セントラルパーク視察/ヒアリング

セントラルパークの現在の成功の大きな要因として挙げられているのが“革命的”なゾーンマネジメントシステムである。

ソーンマネジメントシステムでは341 haの公園を49ゾーンに区分し、各ゾーンごとにゾーンガーデナーを配置し、ゾーンガーデナーが造園・植栽管理を担当。ゾーンスタッフおよびボランティアと連動しながらゾーンの管理を行う。

また毎日公園を利用する人に対して同じ顔がそこに居ることで、安心感と公園の哲学を共有する会話を提供しながら市民の公園に対しての愛着を育むための公園の“顔”になっている。



Ⅰ-2-b.「パークスカウト」機能の強化-1

＜これまでのご提案＞
パークスカウト
地域共生型ボランティア
コーディネイト組織

→

＜修正案＞
高い専門性を保有する
万博記念公園の森づくりのプロの職能名称
万博記念公園のブランド作りを担う集団

公園の造園・植栽管理スタッフの職能名称
従来は裏方であった森をつくる（造園・植栽管理）に名称を導入することにより
その技能に森づくりのプロの価値をしっかりと一般に印象づけ
万博記念公園の森管理のクオリティの高さを伝えていく
森づくりのプロが公園の顔となりブランドとなり自然環境と人間を繋ぐ役割を担う

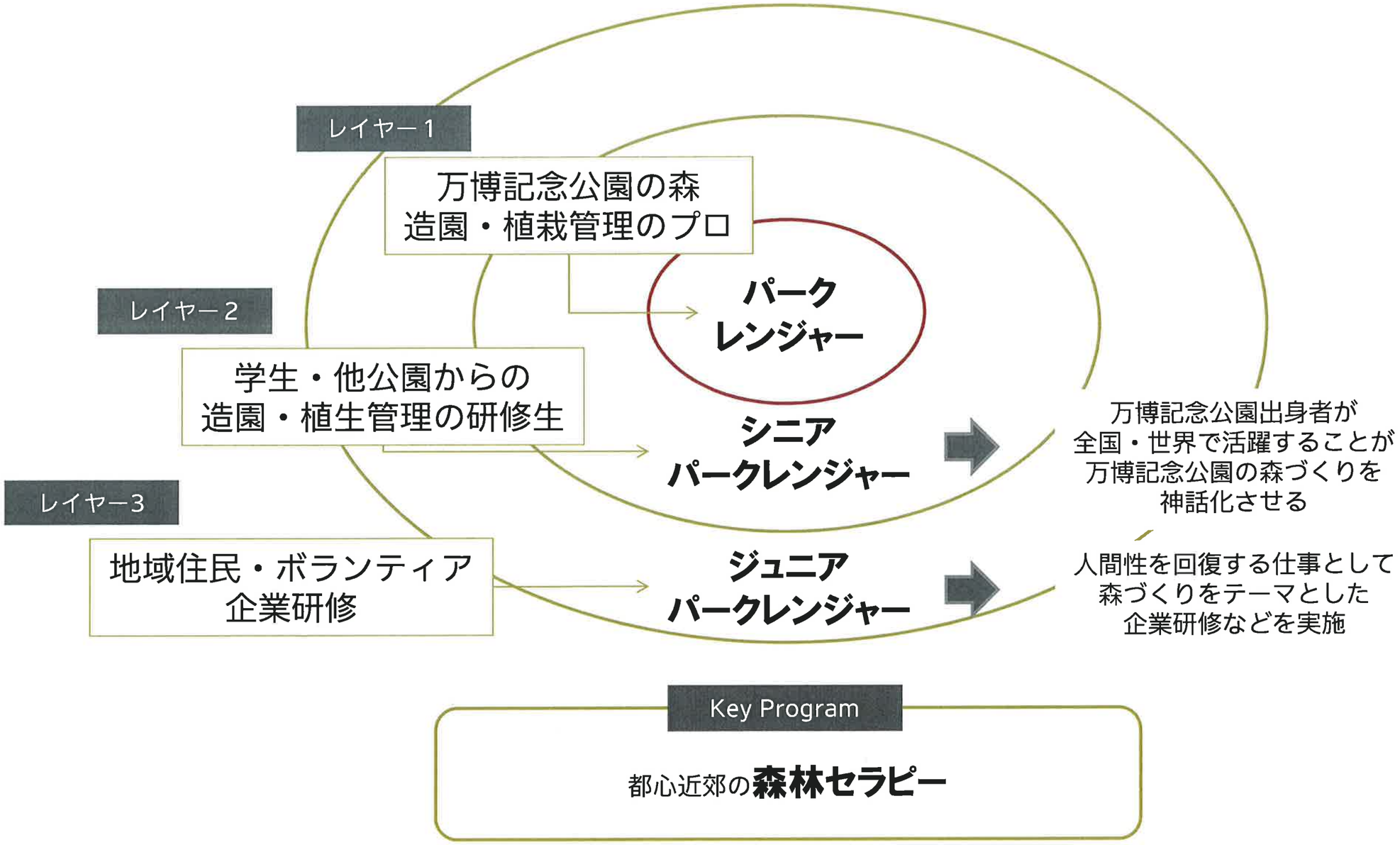
万博記念公園パークレンジャー
（役割：造園・植栽管理・インタプリター・コーディネーター）

狙い
万博記念公園の森づくりの人材とその技能を
一般の人にとっても分かり易く顕在化させスタッフのブランド化を図る
注目される職業とすることによりスタッフの士気アップおよび仕事に対する誇りを醸成
スキルの高い人材が永続的に森づくり関わり続ける装置として機能していくことを目指す

役割
高度な造園・植栽管理を行いつつ
公園利用者と自然環境の仲を取り持ち自然環境へのナビゲーターとしての役割を担う
都会に近い公園で自然環境に対する理解を啓発する指南役を務める

Ⅰ-2-b.「パークスカウト」機能の強化-2

パークレンジャーをその技能別に階層化することにより
頂点にたつ森づくりの専門家の価値を際立たせるとともに
憧れの職業としての地位の確立を目指す
地域府民・NPO・ボランティアとも連携し様々なプログラム開発を行うが
中でもパークスレンジャーの行う目玉プログラムとして“都心近郊の森林セラピー“を検討
大阪府内の森林セラピー実施公園第一号を目指す



Ⅰ-2-c. 未来を見据えた創造性を高める機能の追加

Ⅰ-2-c.未来を見据えた創造性を高める機能の追加

＜これまでのご提案＞

賑わいづくりが施設利用の
“消費”に限られている

＜修正案＞
太陽の塔の主題である“人間の創造性“
に叶う“創造”を切り口とした
活性化方策を検討

2070年の社会を想定した
次世代のモノづくりのプロトタイプとなりうる先駆的施設を検討
世界中の最先端のモノの集積地となり日本のモノづくりを牽引した70年万博
21世紀は現代の“叡智の集積地”としてのその跡地にその思想を受け継いでいく

公園内の自然と文化豊かな環境の刺激をうけながら

世界中の最先端の叡智と繋がり

創造力を発散させアイディアを具現化していく場づくりへ。

府民の構想力と具現力の力を培う場へ

例）　**FabLab（またはテックショップ）**

大量生産・規模の経済からのパラダイムシフトと言われ現在世界中に広がりを見せている市民工房（詳細は次頁）
3Dプリンター、レーザーカッターなどデジタルの工作機械を備えた工房
世界中のFabLabとつながりアイディアが共有されそれが制作される工房
市民の利用を促しながら市民のモノづくりリテラシー向上を支援

**世界的なムーブメントにおける
先駆的なモノづくりラボ**

デジタルからアナログまで、「あらゆるものを作る」ことのできるFabLaboから、「モノづくり革命」を牽引していく。

×

**世界のFabLabネットワークと
連携した人材育成機能**

世界中のFabLabネットワークとも連携し国内外の若手アーティストの創作活動の場を設けるとともに、発表や交流の場をもかねることで、アーティストの育成機能を担う。FabLabの公用語は英語

×

**MITやスタンフォードレベルの
先端技術や価値創造精神を育む場**

MITのメディアラボや、スタンフォードのデザインスクールの例のように、大阪大学などの周辺大学を中心に、学生の柔軟な発想や研究者の専門性とのコラボレーションを図る。

＜参考事例＞FabLab

FabLab Japan

第三の産業革命を牽引する
未来のモノづくりの市民工房

Fablabs globally

～世界的なモノづくり革命～
バイオテクノロジーから人工衛星まで

FabLab（ファブラボ）とは?

ファブラボは、デジタルからアナログまでの多様な工作機械を備えた、実験的な市民工房のネットワークです。個人による自由なものづくりの可能性を拡げ、「自分たちの使うものを、使う人自身がつくる文化」を醸成することを目指しています。3次元プリンタやカッティングマシンといった先端工作機械の普及によって実現される「パーソナル・ファブリケーション」（個人的なものづくり、多品種少量生産型デザイン）の可能性を、集う様々な人と共同で開拓していくための実験的な市民工房のネットワークです。
ファブラボは次世代のものづくりのインフラのようなものであり、インターネットの普及によって誰もが自由に情報発信することができるようになったように、ファブラボが各地に普及することで、各々が必要なとき、必要な場所でものづくりができるようになることが期待されています。
2002年にスタートしたファブラボは、MIT（マサチューセッツ工科大学）のニール・ガーシェンフェルド教授がその著書『ものづくり革命 パーソナル・ファブリケーションの夜明け』でファブラボを紹介して以来、その考え方が急速に世界に広まりました。
2011年4月現在、少なくとも世界20カ国以上50か所以上にファブラボが存在しています。アメリカやヨーロッパの先進国ばかりでなく、ケニアやアフガニスタンなどの途上国にも広まっており、日本では2011年に「ファブラボ鎌倉」と「ファブラボつくば」がオープンしました。
各ファブラボの運営形態は様々で、大学などの教育研究機関や地域のコミュニティセンター、文化施設と一体化したもの、NPO/NGO、あるいは個人によるものなど、それぞれが独自の運営を行っています。

Ⅰ－３　将来ビジョン中間報告　個別検討項目について

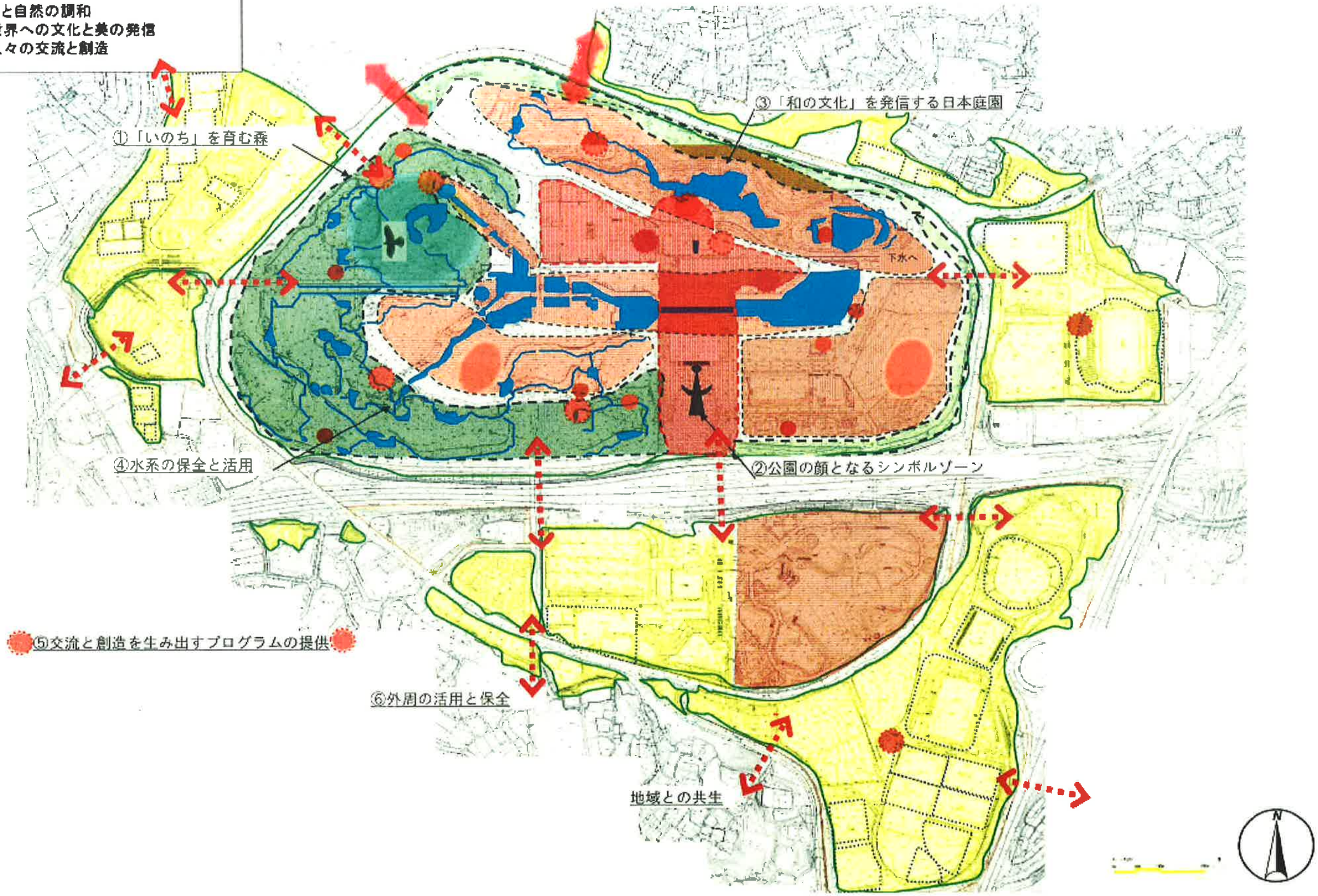
将来ビジョン中間報告　基本方針1.

地球環境保全・再生に貢献する公園

これからの万博記念公園（案）

基本理念 「人類の進歩と調和」

目標像 人と自然の調和
世界への文化と美の発信
人々の交流と創造



森の目標像（案）

【将来ビジョン】

〇公園の基本理念・目標像

・基本理念　人類の進歩と調和

・目標像『人と自然の調和』

『世界への文化と美の発信』

『人々の交流と創造』

・基本方針

◆地球環境保全・再生に貢献する公園（生物多様性、地球温暖化防止）

◆緑の中で人々が憩い活動し美に感動する公園（人と自然・芸術の触れ合い）

◆多様なライフスタイルを実践できる公園（子育て、生涯学習、ボランティア）

【現状】

〇立地　都市のなかの森（市街化区域内）

〇面積　約50ha

〇万博会場跡地の人工地盤に育成した人工林

〇生きもの：街のなかに森の動物が生息　モリアオガエル、オオタカ、キツネ、タヌキ等

〇森の育成はＮＰＯと協働し、育成して管理。

〇自然観察学習館では、自然に関する展示等の活動を行うとともにボランティア団体が家族連れおよび校外学習の小中学生向けに自然観察会を実施。

【育成の方向性】

〇人と自然のふれあい

⇒１）多様な構造と植生を持つ森を育成（多様な顔を持つ森）

⇒２）貴重な生物を守ることを優先する森を育成

⇒３）人との接点がある森を育成

〇人と文化のふれあい

⇒４）（日本の）文化を生み出した森を育成（照葉樹林、落葉樹林）

⇒５）（暗い森でなく）、明るく、美しい森を育成

⇒６）活動の場となる森を育成

〇人と人とのふれあい

⇒７）人々が森に関わる仕組みを構築（ボランティアによる森育成）

⇒８）多くの人々が楽しめる仕掛けを設置（活動拠点とプログラムの提供）

⇒９）壮大な実験を行う仕組み（審議会による評価、研究機関への委託調査）

整備当初の公園の目標像に沿ったみどりの姿を森の目標像に設定する。

【森の目標像（命を育む森、生命力を取り戻す森】

①人と自然の調和

・街のなかで森の生きものにふれ合うことのできる豊かな森

・貴重な生物種を育む森（オオタカ、モリアオガエル）

・人がみどりのなかで生命力を取りもどし、人間性を回復する森

②世界への文化と美の発信

・民博や民芸館で見た生活文化の背景を実際に見ることが出来る『森』

・自然の美を実感する『美しい森』

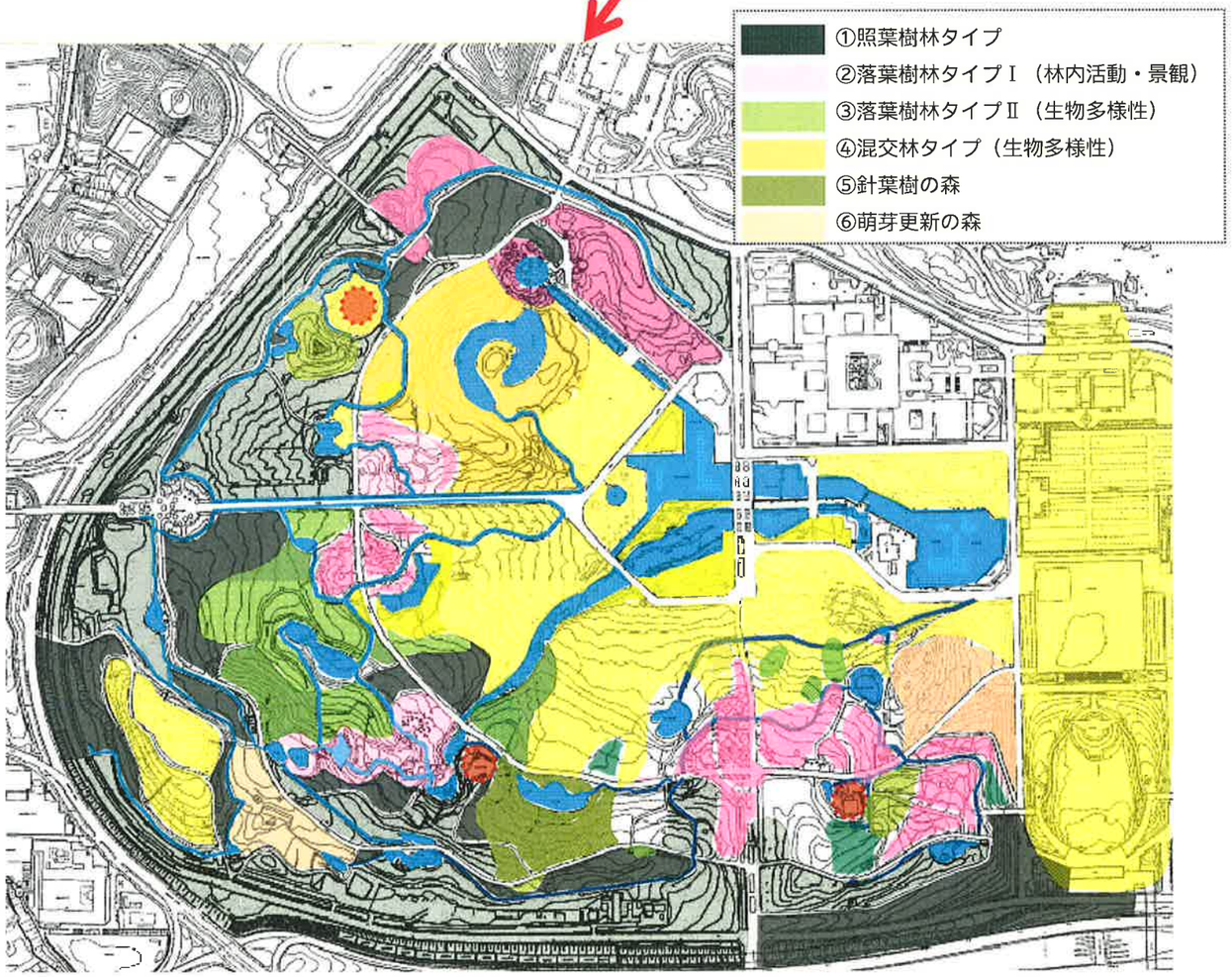
・新たな文化を生み出す森（自然と共生、森と芸術）

③人々の交流と創造

・人々の関わりで育成される森

・多くの人々が楽しむ森

・人工地盤に自然林を再生する壮大な実験を体感する森（環境学習）



森の育成（案）

【公園整備時に目指した森の姿】

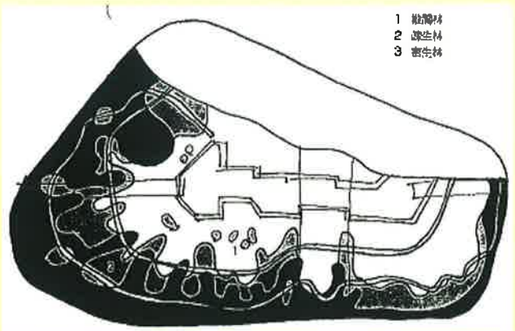
〇もともとここにあった里山の森を再現するのではなく、今日の　都市に必要とされる新しい森が求められている。
〇公園として魅力的な構成とするため、森の配置を工夫し、多様な生態系の森や植物群落を生み出す。
〇公園の魅力は、自然景観の多様な変化により生み出す。
〇植栽密度や植栽樹種の異なる密生林、疎生林、散開林の三つの森の組み合わせにより、明るさと暗さの変化、静けさと動きの変化、華やかさと落ち着きの変化をつくり、公園の魅力を生み出す。
〇また、多様な森が接することで多様な生態系を確保する。

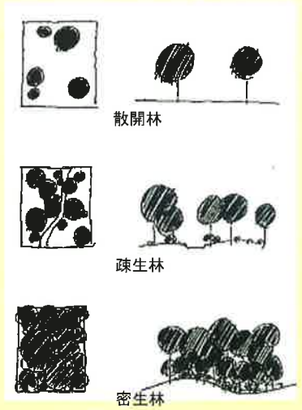
【公園整備時の植栽】

◆密生林
〇シイ・カシ・タブ林　　※当地の自然植生であったと推定されるシイ林を参考に、照葉樹林帯を代表する他の樹林であるカシ林、タブ林をあわせて導入した。
〇スギ林（スギ、ハゼ）

◆疎生林
①クヌギ・コナラ林（ススキ、ササ、潅木類）　②カエデ林（ヤマモミジ、イロハモミジ、ケヤキ）
③湿性林（ハンノキ、サワグルミ）　④サクラ林（ヤマザクラ、ソメイヨシノ）
⑤ツバキ林（ヤブツバキ、園芸品種）　⑥梅林（ウメ園芸品種）
⑦松林（アカマツ）　⑧マグノリア林（コブシ、ハクモクレン）
⑨鳥類誘致林（アキニレ、エノキ、ガマズミ、ウメモドキ）

◆散開林
〇芝生地（草地）に樹木が点在する環境。





【森の課題】

〇同年齢個体・過密林化（大径木が無い、暗い林）
〇単純林化（樹種が少なく、植生が単純化。景観の変化がなくなっている）
〇単層構造（林床が暗く、低木、草本層が少ない。生物相が貧弱。）
〇世代交代が困難。（若い木が育っていない。）
〇周辺からの種の侵入が困難（孤立緑地、種のポテンシャルが低い）

【森づくりの課題】

〇ギャップをつくっても、数年で、実生同士の競合や残存木の生長により、実生出現数が減少。
〇ギャップをつくってもササ、つる植物が繁茂し、実生の成長が抑制。

【審議会意見】

〇照葉樹林の育成のためには、森林土壌の撒きだし（種の供給）が必要。
〇落葉樹林の目標種にクヌギ・コナラを入れるのは、萌芽更新による樹勢の維持が必要であるため、避けるべき。

【育成方針】

〇間伐・ギャップ創出による樹木密度・林内光環境の改善
〇景観の変化が楽しめるように様々なタイプの樹林をモザイク状に配置
〇苗木植栽による低中木・林床の育成（多層構造）
〇間伐による後継木の育成
〇近隣の森林土壌撒き出しによる新たな種の導入（照葉樹林、落葉樹林）
〇ギャップ創出手法のさらなる検証
〇ササ、つる植物の刈込

【育成する樹林タイプ】

①照葉樹林タイプ
②落葉樹林タイプⅠ（林内活動・景観）
③落葉樹林タイプⅡ（生物多様性）
④混交林タイプ（生物多様性）
⑤針葉樹の森
⑥萌芽更新の森

森の育成（案）

①【照葉樹林タイプ】
〇公園全体を包み込み、来園者に落ち着きや静寂を与える森として育成。

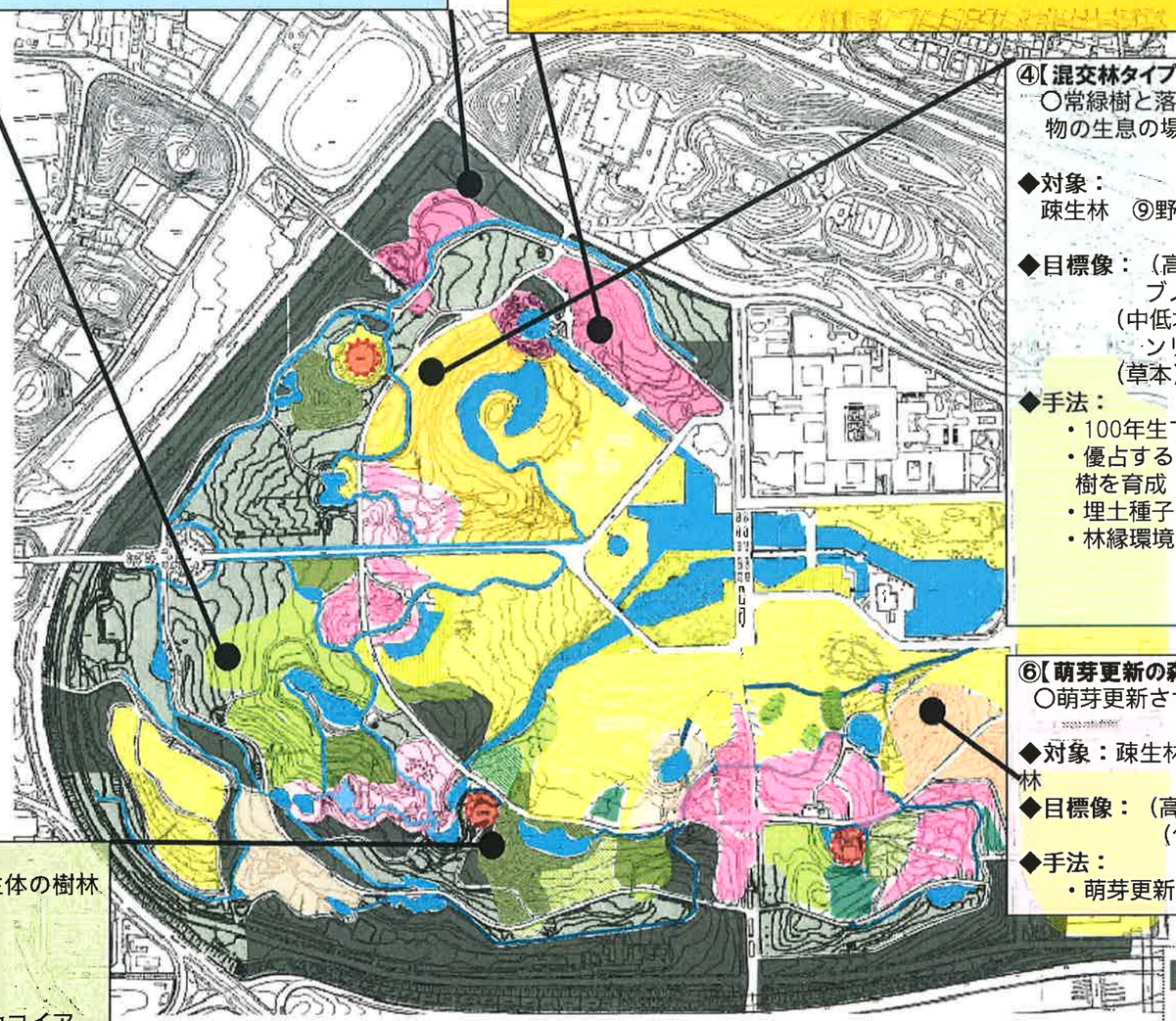
◆対象：密生林
◆目標像：（高木）シイ、カシ、タブ　（中木）モチノキ、ヒメユズリハ、ヤマモモ、ヤブツバキ
（低木）ヒサカキ、ヤツデ、マンリョウなど
◆手法：
・100年生で100～200本/ha
・アラカシの優占度を下げ、多様な樹種構成とする
・間伐による林内照度の改善
・埋土種子を活用した林床植物の導入

②【落葉樹林タイプⅠ】（景観林・林内活動）
〇今ある景観林（テーマ園）を来園者がより楽しめる魅力ある落葉樹を中心とする森へ改善。

◆対象：疎生林②カエデ林（紅葉渓周辺）　④サクラ林（桜の流れ周辺）
⑤ツバキ林（ツバキの森）　⑥梅林
⑧マグノリア林（西大路東部）　など
◆目標像：
②カエデ林（ヤマモミジ、イロハモミジ）　④サクラ林（ヤマザクラ、ソメイヨシノ）
⑤ツバキ林（ツバキ園芸品種）　⑥梅林（ウメ園芸品種）
⑧マグノリア林（コブシ、ハクモクレン）
◆手法：
・景観林はテーマに沿った管理
・来園者が林内の活動ができるように下枝や下草を管理

③【落葉樹林タイプⅡ】（生物多様性）
〇落葉樹を中心とした高木層で、花や実をつける低木類や林床植物の生える、昆虫類や野鳥が多く生息する森を育成。

◆対象：密生林　水車茶屋周辺
疎生林　③湿性林（ビオトープの池）
◆目標像：（高木）アキニレ、ケヤキ、エノキ、クヌギ、コナラ、ヤマザクラ
（中低木）ガマズミ、ミツバツツジ、モチツツジ
（草本）キンラン、ヤブランなど
◆手法：
・100年生で25～100本/ha
・優占する常緑樹を間伐し、林相を転換
・埋土種子を活用した林床植物の導入
・林縁環境の整備することによる生物生息環境の創出
・ササ類の刈り取りによる林床環境整備



④【混交林タイプ】（生物多様性）
〇常緑樹と落葉樹が混じりあう樹林で、落葉樹林とは異なる生物の生息の場となる森を育成。

◆対象：
疎生林　⑨野鳥誘致林（野鳥の森）

◆目標像：（高木）アキニレ、ケヤキ、エノキ、アラカシ、タブノキ、シイノキ
（中低木）アオキ、ナンテン、ヤツデ、ヤブコウジ、マンリョウ
（草本）シダ類など
◆手法：
・100年生で25～100本/ha
・優占するアラカシ等の常緑樹中心に間伐し、残存する落葉樹を育成
・埋土種子を活用した林床植物の導入
・林縁環境の整備することによる生物生息環境の創出

⑥【萌芽更新の森】
〇萌芽更新させながら、クヌギ、コナラ林を維持。

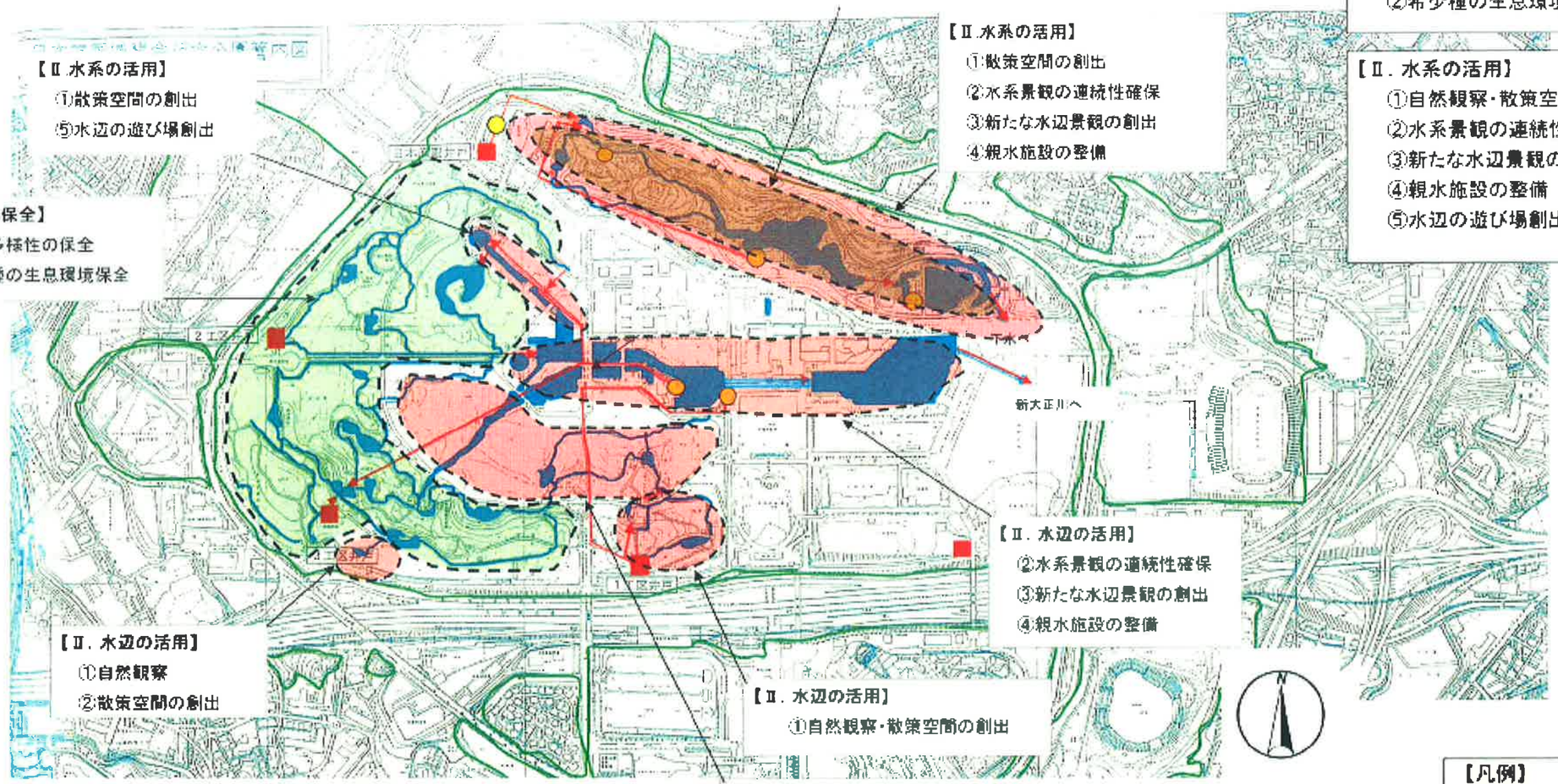
◆対象：疎生林　どんぐり池周辺、自然学習の森、梅林北側樹林
◆目標像：（高木）クヌギ、コナラ、アベマキ
（低木）ガマズミ、ナツハゼ、ミツバツツジ
◆手法：
・萌芽更新もしくは、新規植栽によって樹林を維持していく。

⑤【針葉樹主体の森】
〇自然文化園の重要な景観となっている針葉樹主体の樹林を維持。
◆対象：密生林　針葉樹林地区（もみの池周辺）
疎生林　⑦松林（松の池、水草の池）
◆目標像：
・（針葉樹林地区）モミ、スギ、ヒノキ、メタセコイア
・（松の池、水草の池）アカマツ、ススキ
◆手法：
・来園者が林内の活動ができるように下枝や下草を管理

①照葉樹林タイプ
②落葉樹林タイプⅠ（林内活動・景観）
③落葉樹林タイプⅡ（生物多様性）
④混交林タイプ（生物多様性）
⑤針葉樹の森
⑥萌芽更新の森

水系の保全と活用（案）

1．万博記念公園の水系の保全と活用



【凡例】
- 水路・池
- 管渠
- 井戸
- ポンプ

万博記念公園の水系の概要

○万博記念公園の水系は、園内で循環する閉じられた水系。
○自然文化園を循環する水系、日本庭園を循環する水系がある。
○水源は井戸水および天水。
○自然文化園水系設計の当初思想は、鑑賞や遊びの機能と併せ、山中の自然と同様、自然文化園内の水系から水を溢れさせ、樹林地内を適度に灌水させるための水系であった。
○しかし、井戸の水量が期待したほど豊富ではなく、溢水は断念。代わりに樹林地内に水系を張り巡らせ、蒸散する水蒸気により樹木の成育を助けることとした。
○そのため、森のある自然文化園西側には、水路、池が多く配置されている。

水系の保全と活用への対処（案）

	【Ⅰ．水系の保全】	【Ⅱ．水系の活用】
現状・課題	○植栽の繁茂、土砂の堆積・流失による水辺構造の単純化 ○水系の存在により、周辺樹林地の湿度が確保。	○景観上、分断された水系。 ○樹木の繁茂等により遮蔽され、良好な水辺景観が乏しい。 ○休憩施設等、水辺空間の施設活用が乏しい。 ○上記理由により、水とのふれあいの場が消失。
目標像	○生物多様性豊かな水系の維持・保全・再生 ○国内希少種が生息する貴重な水系維持 モリアオガエル、ニッポンバラタナゴ、イタセンパラ、ゲンジボタル、ヘイケボタル等々	○休息、遊び、学び、散策が楽しめる水系。 ○多くの人を引き付ける多彩で良好な水系・親水空間。
対応手段	①園内生物多様性の保全を継続 ②希少性の生息環境保全を継続	①植栽整理による、自然観察・散策空間の創出。 ②水系景観の連続性確保。 ③新たな水辺景観の創出。 ④親水施設の整備。 ⑤水辺の遊び場の創出。
年次計画		
短中期（～2020）	・生物多様性に配慮した施設整備及び植栽管理の継続 ・園内水系頼りに生息する国内希少種の保全 ・生態系に影響を及ぼす、特定外来生物の駆除	・自然観察・散策空間の創出（周辺樹木整理・浚渫・未生木撤去等による水辺景観・空間の改善）。 ・水遊び空間の創出（浚渫の実施、水中柵・安全施設等の設置）。 ・シンボルゾーン、日本庭園において親水空間を整備。
長・長々期（～2070）	・上記内容継続	・新たな水辺景観の創出・親水施設の整備 自然文化園（水辺のレストラン・親水デッキ・休憩施設等の施設設置） 日本庭園（中央休憩所改修、船着き場等修景観施設の設置） ・水系景観の連続性確保 水澄ましの池～夢の池～日本庭園に至る水系の連続性を親水施設整備と併せ修景。
プログラム	・市民参画による自然環境保全の取り組み拡充（水系動植物調査・水辺自然環境保全・再生）	・親水空間を利用したイベント開催 自然文化園：自然観察や環境保全型農業体験等の体験型プログラムの開発 日本庭園：　水辺空間を活用した新たな集客（ホタル観賞会、観蓮会の継続も含む）イベントの開発
備考		

将来ビジョン中間報告　基本方針2.

緑の中で人々が憩い活動し美に感動する公園

シンボルゾーンの重点整備(案)

1．シンボルゾーンに求められるデザイン

○公園のシンボルである太陽の塔を緑の海のなかで人々に魅せる空間
○公園の顔として、観光客を呼び込める魅力をもった空間
○中央口から日本庭園までを一体的・効率的で円滑に移動できる機能

【エントランス（中央口～太陽の広場～太陽の塔周辺】

・太陽の塔と周辺の緑が融合したシンボリックな景観を眺め、訪れた人に感動と強烈な印象を与える空間として演出
・初めて訪れた人や観光客にもやさしい公園施設の案内機能の充実

【交流エリア（お祭り広場～日本庭園前駐車場・ゲート～バラ園）】

・公園が持つ文化や公園から生まれる文化を発信する機能
・多彩な行催事を行い、人々の交流と創造を生む機能
・民族学博物館や大阪日本民芸館、日本庭園の連携を円滑にする機能

【日本庭園（正門、中央休憩所）】

・食、庭園景観、伝統文化など、和の文化と美を体感できる機能

2．課題

【構造】

①ゾーンの中央に駐車場があり、中央口から日本庭園までの連続した景観の形成が図れない。
②縦断に高低差があり、平面的な空間形成が難しく、勾配のきつい園路もある。
③景観形成に沿道の水系を活用できる構造となっていない。
④太陽の塔の眺望を阻害している樹林地や老朽化した施設がある
⑤日本庭園中央休憩所が老朽化。景観を阻害。
（ファサードなどで遮蔽）

【動線】

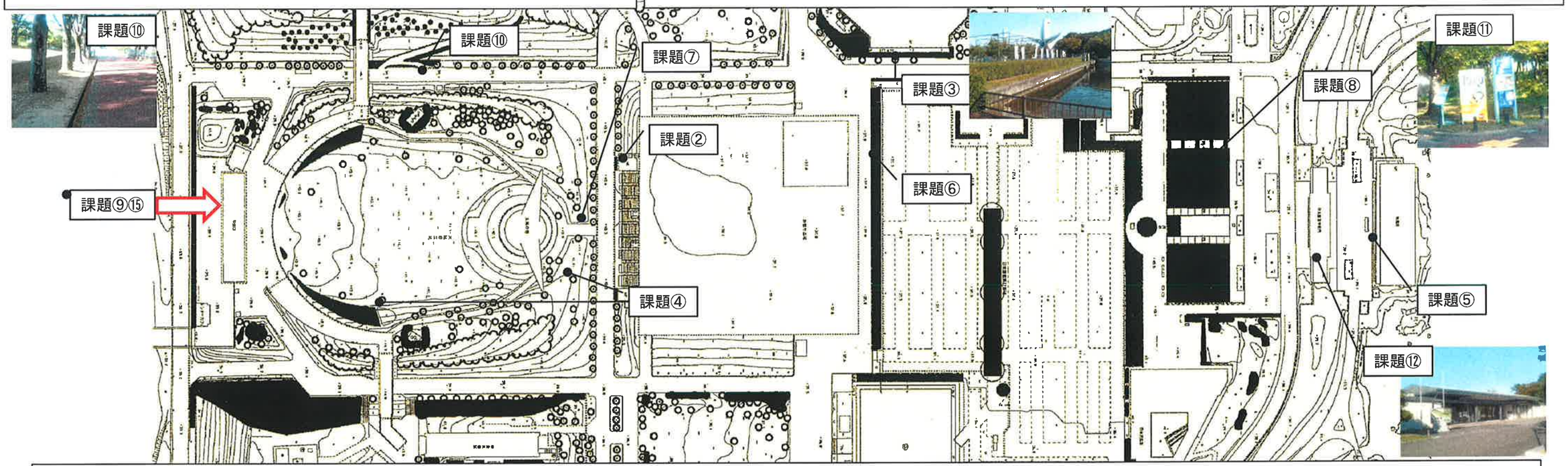
⑥広場の構造物や駐車場が歩行者動線を分断している。
⑦園路の狭隘な箇所や、お祭り広場のスタンドなどにより線形が折れ曲がり、歩きにくい。
⑧バラ園の階段状構造や噴水、腰積などにより、民芸館・博物館・日本庭園間の動線を阻害。

【景観】

⑨樹木の繁茂や老朽化した施設、駐車場により、中央口から日本庭園までの眺望が阻害。
⑩中央口から日本庭園までの動線上に、擁壁など人工物が目立ち、景観を阻害している。
⑪サインが多く設置され、統一感がなく、景観を阻害。
⑫日本庭園の正門が庭園内の景観を遮断し、シンボルゾーンとしての見通しを阻害している。

【施設】

⑬ゆっくり落ち着いて眺望や景観を楽しみながら休憩や食事等ができる場所がない。
⑭食堂や売店が老朽化、魅力のあるデザインではない。
⑮太陽の塔を観賞できる食堂や休憩所と言った場がない。

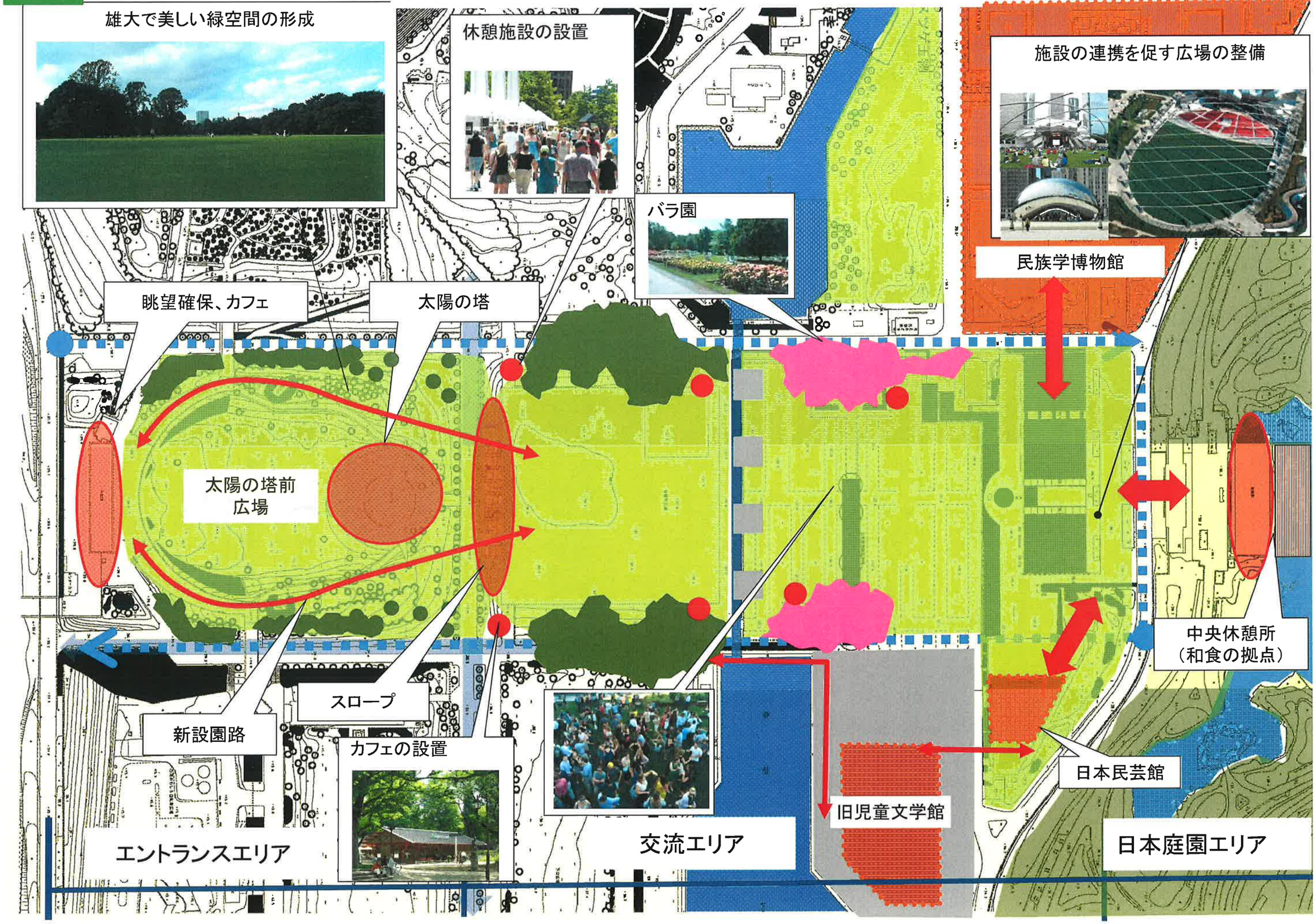


3．整備の方向性

・シンボルゾーン一体を雄大で美しい緑空間とする、中央口から日本庭園へのビスタの形成。
・繁茂しすぎた樹木の景観に配慮した整理、景観を阻害する老朽化施設の撤去、遮蔽
・自然な線形となるように園路を改修、動線上に憩いと魅力を生み出す親水空間の整備。
・多様な文化イベントを開催できる広場の確保
・憩いや安らぎのある広場、明るい樹林の形成、来訪者が気楽にくつろぎ公園を楽しめるカフェ、休憩所等の設置。
・日本庭園の魅力を高める中央休憩所の整備、シンボルゾーンとしての一体性をもった景観を形成するため正門を撤去、和の文化の発信拠点となる日本庭園正門周辺の改修

緑②

収支シミュレーションのうえ2030年までの整備内容を絞り込み



魅B 太陽の塔・お祭り広場（シンボルゾーン）

■現在の課題

①公園のシンボルであり、確固たるアイデンティティである
太陽の塔を、公園の価値として十分にいかしきれていない。
②太陽の塔や岡本太郎は、依然として海外での知名度は低く、
外国人観光客にとって魅力的なものとなりえていない。
③今後、太陽の塔や万博にまつわる周年を迎えるタイミングを
最大限に活用した文脈作りが重要。

■調査・ヒアリングからの考察

◎若者の間で、太陽の塔や岡本太郎への関心が高まっている今、
太陽の塔をシンボルとして、万博公園の発信力を強化する
◎2017年の太陽の塔の内部公開、
2020年の万博開催から50周年に盛り上がりを醸成する
◎海外観光客に向けても、メディアを活用して太陽の塔を発信し、
観光スポットとしてブランド価値を高める
◎また一部熱烈なファンの間では自主的に太陽の塔のクラウド
ファンディングを立ち上げたいなどの動きもある

※ヒアリング調査
・雑誌編集長Ａ氏/旅サイトシニアマネージャーＢ氏/観光フリーペーパーＣ氏

■ 魅力強化策

太陽の塔を現代の聖地とした名刹シンボルゾーンの整備

太陽の塔を中心とした シンボルゾーンの整備 （具体案は緑部会にて検討中）

エントランスから太陽の塔まで、
シンボルである太陽の塔の存在感がひきたち、パワーを感じられる動線を設計、整備する。

太陽の塔のベストフォトスポットマップを作成し、太陽の塔シンボルとしての存在感を高めるとともに、
撮影者がＳＮＳを介して情報を発信、拡散することを目指す。

万博開催から50周年 に合わせた行事、祭典

2017年の太陽の塔内部公開、2020年の万博開催から50周年という節目の年に、太陽の塔のコンセプトである生命の根源を体現した創造的な祭典を実施し、新たな文化として継承していく。内部公開に向けては、カウントダウンプロジェクトを行い、太陽の塔への注目度を高める。

50周年では、国立民族学博物館や鉄鋼館ともコラボレーションをした行事やお祭り、イベントも
開催する。

海外観光客向け ビジターセンターの開設

海外の観光客がより万博内で快適にすごすことができるように、園内でも情報発信に力を入れる。

太陽の塔を「世界遺産」に登録へ

地域住民、地元企業、行政が一丸となって公園のシンボルである太陽の塔を「世界遺産」に登録に向けて活動を行うことで国内外からの注目を集め、公園の価値を高める。

■ 広報発信プラン

●太陽の塔に関する他言語対応雑誌の発刊

太陽の塔の魅力や、現在の姿、内部、
太陽の塔に込められた思想などを記した雑誌を発刊。
海外のブロガーなどにも配布し、
世界へ向けて太陽の塔を発信する施策を実施する。

●『1億件の口コミから選ぶ　死ぬまでに行きたい大阪の仰天スポット100』

太陽の塔が、世界の観光地の中でも、
訪れる価値のある場所として
雑誌やＷＥＢ上でも発信する。

将来ビジョン中間報告　基本方針3.

国内外から多くの人が訪れる公園

日本庭園の方向性（案）

■現状

面積:26ha（日本最大級）
茶室3棟、休憩所及び管理棟、池3か所
入場料250円
年間入場者数約20万人（自然文化園180万人）
生きものの生息空間（ホタル、在来魚など）

■作庭意図

『人類の進歩と調和』

・超近代的造形の出展物が林立する博覧会場のなかで、来場者に落ち着きと安らぎを与える休息の場の機能を受け持つ。
・自然と人間の調和ある世界の創造。
・自然の地形を利用して西端の源泉から東に向かって渓谷を流れ平野に至る水の流れを人類の進歩と時の流れを象徴させ、全体として調和のとれたひとつの作品を創る。

・大勢の人が利用しやすい庭園
・大衆向け、集客重視

・回遊性、広域にわたる散策
・各時代の庭園様式
・パノラマ眺望

・深山幽谷、もみじの渓谷、竹林の静謐、関西独特の景観（マツ、ツツジ）、茶庭、枯山水、池泉回遊、現代の庭園

■将来ビジョン（中間報告）

・基本理念　人類の進歩と調和
・目標像　『人と自然の調和』
　　『世界への文化と美の発信』
　　『人々の交流と創造』

■整備後

○バリアフリー、五感の体験
○多様なライフスタイル

■方向性『大勢のあらゆる人が気軽に自然と美を味わう空間』

○世界の人々が感動する日本庭園を育成する。
・質の高い管理、愛着のこもった管理。

○作庭意図の具現化
・落ち着きと安らぎを与える庭園でありつづける。（生命力・人間性）
・作庭意図に沿った庭園技法を用いた修景管理。
（人類の進歩と自然との関係）

○多くの人が気軽に利用できる『庭園』として、さらに挑戦
・五感で楽しめる庭園
・ユニバーサルデザイン化
・分かりやすい庭園

○作庭意図に沿った活用、サービス提供。
・社交の場としての庭園を通じた日本の理解。
・茶・食を通じた日本の理解。

■手段

○継続的で質の高い管理を可能とする体制。
○公園全体で確保した収益の充当。

○作庭意図に沿った修景管理。
○生きものを大切にする管理。

○庭園改修
・庭園入口の改修（場面の切り替え、全体景観との調和）
・香りや音を楽しむ植生や施設改修
・ユニバーサルデザイン化
・じっくり庭園を楽しむことが出来る休憩施設の設置。

○『名景・銘木』の命名、分かり易い視点場の再生

○作庭意図に沿った活用、サービス提供。
・日本庭園の幅広い活用。
・庭園の特長である『茶』を軸においた活用。
・大阪の強みである『食』を軸においた活用。
・庭園の景観を生かした季節の行事

○広報の強化

■課題

○入場者数の増加
○適切な景観管理の継続
○建築物の有効利用
○利用者サービスの向上（施設名、景観ポイントの解説、売店）

■審議会意見

・基本的には、作庭意図の具現化、活用。
・日本庭園を見る気がなかった人が、「大阪にこんな日本庭園があるんだ」と大阪の近代の日本庭園の素晴らしさを体感してもらうようにすべき。世界の人が感動できる空間でなければならない。
・庭園への導入は重要。万博公園の門を入ってバラ園があるのは人の気持ちを考えていない導入方法。日本庭園にはどういう入り方がいいのか、気持ちの転換が促されるような装置が必要。
・日本庭園に関しては、万博仕様があってもよい。万博の日本庭園は、万博公園として本物を造っている。
これをどううまく活用するのか、それを考えるべき。
・何をどのように見せるのか、どのような人が来ると想定しているのかわからない。ニーズのないところに国際公園はできない。
・民博、民芸館と日本庭園との連携について調整すべき。
・来園者それぞれが、それぞれの楽しみ方ができるものでなければならない。少しだけ見る、1日いても楽しめるようにしなければならない。
　そのためには、質の高い、安心で魅力のある日本庭園であることが必要。質の高い食事や庭園技術が楽しめる場所、プログラムが必要。
・清掃が行き届いている。愛情が込められている。そういう空間は人を惹きつけるものがある。
・日本庭園は、その匂いを感じながら何かを共有する場として機能することを目指した魅力向上について、もう少し議論すべきではないか。
・日本庭園については、本物を造りだすことが必要だが、どのエリアで採算を考えるのかということを、もう少し整理することが必要。

日本庭園の将来像（案）

【作庭意図に沿った修景管理】

○樹木の高木化は、枝の枯死、眺望の喪失、林床植栽の消滅などを起こすため、今後も質の高い庭園管理を実施することが必要。

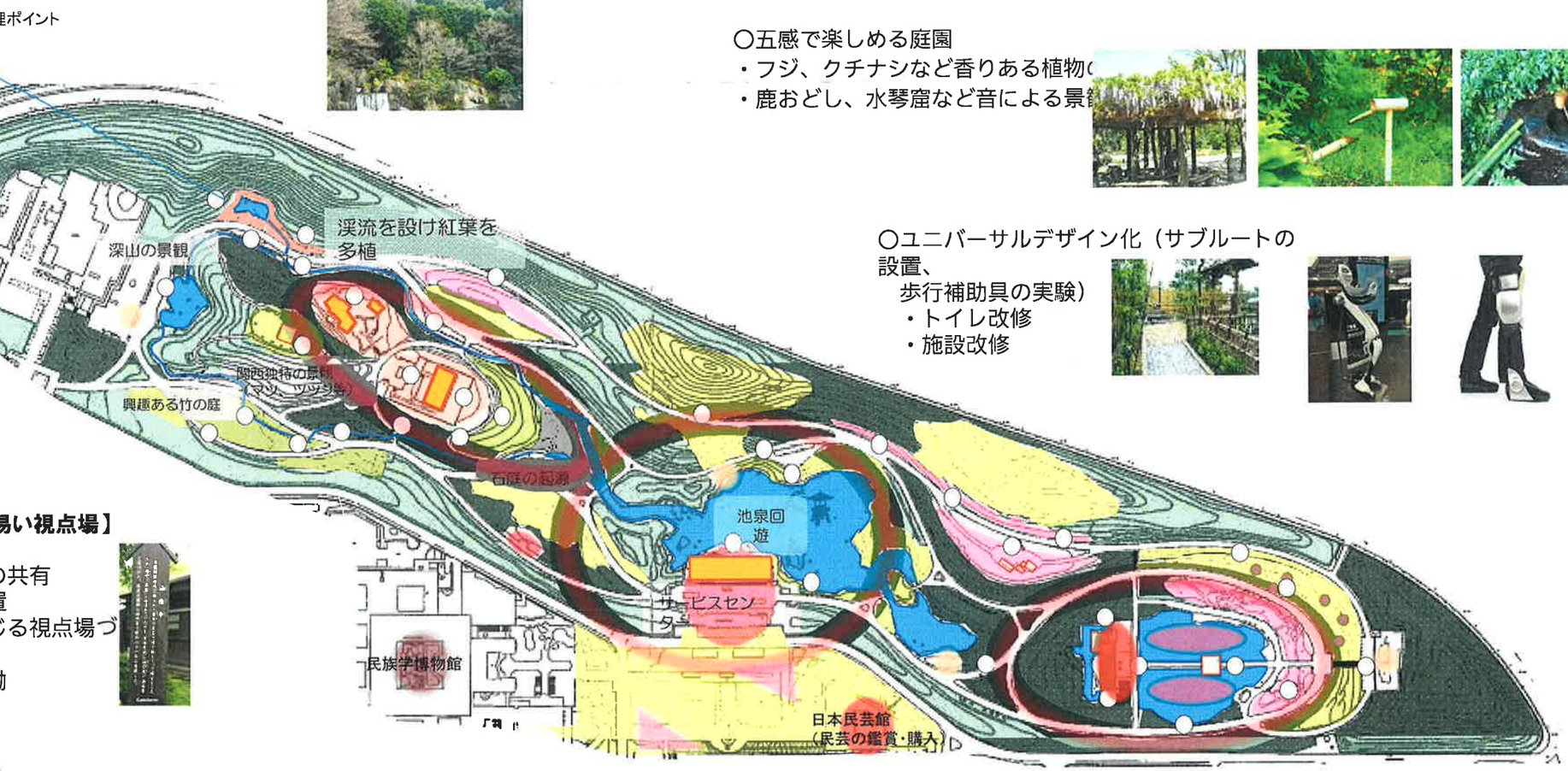
○修景管理においては庭園の見所の特性をとらえ魅力を明確に表現していくような樹木管理を実施。

【庭園改修】

○庭園を楽しむ休憩施設の設置
・老朽化した休憩施設を改修し、落ち着いて庭園を鑑賞。

○五感で楽しめる庭園
・フジ、クチナシなど香りある植物
・鹿おどし、水琴窟など音による景観

○ユニバーサルデザイン化（サブルートの設置、
歩行補助具の実験）
・トイレ改修
・施設改修



【『名景・銘木』の命名、分かり易い視点場】
・庭園の命名
・名景・銘木の命名、景観の共有
・解説版、案内サインの設置
・解説が無くとも何かを感じる視点場づ
・案内所の整備
・庭園ボランティアとの協働

【日本庭園の幅広い活用】
・日本の庭園は祭祀や儀式の場に始まり、外交、情報交換、文化の発信、鑑賞の対象となり、社交の舞台ともなった幅広い使用がなされた。万博においても、庭園の魅力を引き出す活用を行う。

【“Journal of Japanese Gardening” への掲載戦略。】

【お茶】
・落ち着いて庭園を楽しむため、茶を軸としたサービス提供。
・海外を知り、また世界からお注目をあつめる茶人によるプロデュースなどを検討、海外からの旅行者が喜ぶ茶の湯体験プログラムを開発

【食】
・庭園を眺めながら和食を楽しむ割烹などの誘致を検討。
・季節の料理を提供。

【庭園の景観を生かした季節の行事】

魅A 日本庭園

■現在の課題

①知名度・利用者が低くそのポテンシャルに対し
　万博公園の価値向上に寄与する場としての存在が低い。
②外国人観光客の集客に寄与する魅力を引き出しきれていない。
　発信力が弱い。
③一部施設の老朽化など魅力的なアメニティおよびプログラムが
　実現できていない。

■調査・ヒアリングからの考察

◎中途半端な文化体験ではなく本物を極めた圧倒的な体験を
　提供しなくては現代の人は感動しない
◎阪神エリアの主婦のランチネットワークをターゲットとした
　話題の懐石料理店などは可能性がある

※ヒアリング進行中

※ヒアリング調査
・庭園美術館館長A氏/飲食コンサルB氏/リゾート企業A氏

■ 魅力強化策 日本庭園の資産を再編集し海外からの評価を高めながら庭園のオーラを発信をしていく
（ハード庭園整備に関しては緑部会にて検討・本資料ではソフト面について言及）

茶の湯文化から進化した現代の懐石

茶の湯など、日本文化体験プログラムの開発

※ヒアリング調整中

■ 広報発信プラン

●「世界的に優れた日本庭園」評価獲得に向けた文脈づくり

”Journal of Japanese Gardening”など、日本文化に対して造詣の深い海外の人が注目する雑誌へ「世界の日本庭園トップ10入り」の掲載を図り、万博記念公園の日本庭園ブームを仕掛ける。

●日本の季節感を体現する情報を発信

桜祭り、紅葉祭りなど、東南アジアにはない四季を感じるイベントをしっかりと海外に向け広報発信していく。

魅D 宿泊施設の誘致

■現在の課題

①万博記念公園に長時間滞在し、その魅力を立体的に体感できる
包括的な目玉プログラムが存在しない

■調査・ヒアリングからの考察

◎シンボルである太陽の塔の文脈を組んだ施設が望ましい。

◎形態の方向性としては、高級リゾート、ファミリー向け、
バジェットホテルなどが考えられる。

◎ここでしか味わえない文化体験、アクティビティなど、
独自性、希少性の高いソフトプログラムの開発が重要。

参考）新潟県十日町市大地の芸術祭　「光の館」
大地の芸術祭の作品であり、
芸術界の巨匠ジェームズ・タレル設計の宿泊・体験施設。
可動式の屋根から時間とともに変化する空の色や、
浴室・浴槽に配された光ファイバーによる光など、
宿泊客しか体験できないプログラムが魅力。

※ヒアリング調査・視察
・リゾート企業Ａ氏/新潟県十日町市「大地の芸術祭」

■ 魅力強化策

宿泊者限定文化体験プログラム付　癒され生命力を養う隠れ家的宿泊施設誘致

公園の立地を活用したいくつかの可能性

高級リゾート
日本庭園の内部に景観の邪魔にならず部屋を点在させることも可能。部屋数の限界を宿泊料でカバー（1泊5万円～）

ファミリー向け
自然文化園での親子向けプログラムを一体開発できれば可能性がある。宿泊の場所は文化園の中にコテージをつくるもしくは現在の事務所塔でも可

バジェット型
現在の事務所塔のホテルへのコンバージョン。宿泊のみで一泊一人8千円、三人一室で一人4千円程度、20～22m²程度。公園観光の後旅の余韻が楽しめるバーやラウンジを用意。周辺のスポーツ施設での合宿需要も見込む

左記宿泊体験の魅力を高めるプログラム開発

日本庭園
中途半端な日本文化体験ではなく、しっかりと本物を極めた文化体験プログラムを開発。宿泊体験を唯一無二の体験にする宿泊者限定のプログラムも用意

太陽の塔
太陽の塔の内部公開に併せ、夕方の夕焼けツアー・夜間の夜景ツアー・早朝の日の出ツアーなど宿泊者限定のプログラムを準備

自然文化園
公園をオリエンテーリングしながら自然環境について親子で学び楽しめるプログラムや夜の公園を楽しむ宿泊者しか参加できないプログラムを検討。

■ 広報発信プラン

●著名なリゾートグループのネームバリュー
および公園活用のユニークなアイディア
そのものをニュースに施設の魅力のPRを図る

その他

将来ビジョン中間報告　基本方針4.

文化と美を体験、創造し発信する公園

将来ビジョン中間報告　基本方針5.

健康づくりを支援する公園

将来ビジョン中間報告　基本方針6.

多様なライフスタイルを実践できる公園

将来ビジョン中間報告　基本方針7.

全ての人が安心して快適に利用できる公園

魅D 大阪日本民芸館・公園東エリア

■現在の課題

①十分な集客と、財源が確保できない
・年間の来場者数は4000人、財政状況も厳しい状況
②公園の魅力作りに今ひそかなブームとなっている「民芸」への関心の高まりを活用しきれていない
③「民芸」の時代に適った文脈作りおよびその発信がされていない

■調査・ヒアリングからの考察

◎民芸館は“超”日本文化のアカデミックな場所として、未来に残すためのアーカイブの整備や創造力を形にする場作り、職人の育成などを担う必要がある
◎民芸運動100周年（4年後）を契機に民芸の新たな文脈づくりのムーブメントを検討
◎「若者にとって魅力的な場所」として情報発信とアクティビティを高めるべき
◎周辺の商業施設や民博、日本庭園などとのネットワークを築き、連携した企画展や共通チケット企画などを実施し、相互送客を検討
◎ギャラリートークや出張授業を通じて、民芸ファン、サポーターを増すと共に民芸市を開催し、若手作家を育てる場作りを検討
◎寄付支援企業との関係性を育む限定イベントなどの実施

※ヒアリング調査
・大阪日本民芸館　長井誠氏/プロダクトデザイナーA氏/デザイナー・クリエーティブディレクターB氏

■ 魅力強化策

日本の生活様式・生活哲学の聖地としての機能強化整備

ライフスタイルショップの誘致

民芸の根源的な考え方を現代に受け継ぐブランドのアンテナショップを誘致。日本の生活技術を結集した万博公園店オリジナルグッズの販売を行い、希少性、話題性を高めることで、国内外からの集客を見込む。

MINGEIと親和性の高いジャンルとのクロスカテゴリーイベントの開催

食・住など今求められる“丁寧な暮らし“テーマに、アトリエやライフスタイルショップ、また地域住民や大学とも協働でライフスタイルを発信するイベントを行う。生活の中で使われてこその民芸の価値を、イベントを通じて伝える。

Fab Labo×MINGEI

旧児童館に、Fab Laboを設立。
誰でも使えるレーザーカッター、３Ｄプリンターなどの機材を揃えている。民芸館が主導で、ユーザーの創造性を引き出し、新たな現代のMINGEIを生みだす活動を普及させる。

また、若手の民芸の職人のアトリエを備え、プロの職人を育成するインキュベーション機能も担う。

■ 広報発信プラン

●「エキスポランド跡地複合施設（仮称）」やスタジアムの来場客を大阪日本民芸館に送客
大きな集客が予想されるショッピングモールやスタジアムの来場客に民芸館の企画や展示を訴求。クーポン配布や親和性の高いラショップとの連携イベントなどを行う。

●日本庭園、国立民族学博物館と連携した企画展の開催や共通チケットの販売
3館共通の企画展や共通チケットの販売により立体的で魅力度の高いプログラムを実施し、相互送客を図る。

●海外の観光客に向けのリーフレットの設置
海外の観光客の目にもとまるよう、市内の主要駅の観光リーフレットや旅雑誌への情報掲載を促進する。

魅E 国立民族学博物館

■現在の課題

①平日の集客が少ない
②閉鎖的なイメージをもたれやすい
　公園とのコラボレーションなどを経て、発信力を強化すべき

■調査・ヒアリングからの考察

◎

◎

◎

※ヒアリング調整中

※ヒアリング調査
・国立民族学博物館Ａ氏/大阪日本民芸館Ｂ氏

■ 魅力強化策

MINPAKU x art/music/fashion **文化のエネルギーが響き合う民博コレクションの創設**

※ヒアリング調整中

■ 広報発信プラン

魅F 自然文化園エリア

■現在の課題

①森林の状態が、生物多様性に欠けており、
　多様な植物が生育できる環境には及んでいない
②森林を活用したプログラムの開発や、
　森林の価値から収益を上げるモデルには検討の余地がある

■調査・ヒアリングからの考察

※飲食事業者ヒアリング調整中

◎万博公園の自然文化エリアは、「都会から近い自然」
　であることが最大の魅力のひとつ
◎近年、企業は社員の健康増進、予防医療に力を入れており、
　企業のプログラムの一環としての森林活用が考えられる
◎季節ごとに、季節を代表する植物などを広範囲に渡って育成し
　フォトジェニックなスポットを作ることが集客につながる。

参考）Bryant Park　広告媒体の開発
主に、企業や団体からのスポンサーシップにより、運営をしている。
公園内の絵本棚やゴミ箱を企業の広告媒体として活用している。

※ヒアリング調査
・ソーシャルクリエーターＡ氏/十日町市観光協会/リゾート企業Ａ氏

■ 魅力強化策　生命力が高まるナチュラルでヘルシーなライフスタイルの発信スポットとしての環境の整備

森林セラピープログラム

豊かな自然を活用して、森林セラピーのプログラムを実施する。個人だけではなく、企業単位の研修プログラムや健康増進プログラムとして実施を検討。

市民の手で作る季節の庭園

季節に応じて、市民の手で、花木の庭園を作り込む。
一面に広がる季節の植物目当てに、多くの集客を見込むことができる。

ナチュラル＆オーガニックを実践するカフェやレストランの誘致

※飲食事業者ヒアリング調整中

■ 広報発信プラン

●オオタカ生息のニュースを海外へ発信、話題化

世界的にも珍しいオオタカのつがいが、森に生息しているというニュースを海外発信のネタとしても活用することで、万博公園の自然管理のレベルの高さ、豊かさの発信につなげる。

魅G 公園全体外周・公園東エリア

■現在の課題

①平日の集客が少ない
②スポーツを切り口に、地域の課題にアプローチする方法は、未だ検討の余地がある

■調査・ヒアリングからの考察

※トライアスロン ヒアリング調整中

◎スポーツは、過疎や健康増進といった「地域の課題解決」へのアプローチの切り口となる。
◎住民の手で、住民主導のスポーツクラブチームを作り運営することで地域の交流や活性化などにも貢献することが　期待できる。
◎スポーツを切り口にすると、ハード面のみお金をかけて整備する場合が多いが、ソフト面の拡充まで考えていることはほとんどない。

参考）新潟県十日町市　サッカープログラム
2015年越後妻有大地の芸術祭にて、サッカープログラムを行う予定。
将来的にはサッカーチームを結成し、スポーツを定住のためのソフトとして考えている。
農業（棚田）で一定のサラリーを得て、他の時間は趣味で大好きなサッカーをする→ワーキングシェアで新しい暮らし方の提案を行う。スポーツを通じて、過疎という「地域の課題を解決」す

※ヒアリング調査
・サッカークラブＡ氏/大阪府サッカー協会Ｂ氏/スポーツメーカーＣ氏

■ 魅力強化策
トライアスロンを中核とした高級スポーツサロンを誘致　スポーツを通じた大阪の新たな社交場として発信

トライアスロンを中核とした高級スポーツサロンの誘致

※トライアスロン ヒアリング調整中

長期的な視点のビジョンを持ち、スポーツを通じて地域を活性化する人材の育成

まずは、地域の課題を明確化し、スポーツを通じて、地域課題にどのようにアプローチできるのか、
ゴールとビジョンを明確化する。
その上で、地域住民が主導となり、クラブチームの指導やイベントを活発に行い、スポーツを通じて人材育成、教育への貢献を目指す。

■ 広報発信プラン

※トライアスロン ヒアリング調整中

魅H　エクストリームスポーツの誘致

■現在の課題

①平日の利用が少ない
②老朽化が進んでおり大規模な補修・改修が必要
③スポーツや文化の発信力の高い公園を目指すためには、
　独自性、話題性の高いコンテンツが必要

■調査・ヒアリングからの考察

◎X-Gamesの中核拠点となり、国内外からの集客を見込む
　ためには、施設としてレベルの高いものを設置することが重要。
◎「宿泊施設併設型」のスケートパークは国内外でも需要が高い。
◎ X-Gamesは青少年への教育とも絡めて展開可能。
◎エクストリームスポーツは、音楽やファッションとの親和性が
　高く、文化発信力が高い。

参考）Camp Woodward Skate Park
アメリカの宿泊施設併設型スケートパーク。屋内、屋外には様々なフィールドコースの他、
乗馬や川遊びなどのアクティビティ設備を整備している。
宿泊施設併設型なので、大きな大会や合宿を開催でき強い集客力を持っている。
周辺地域の住民に重要な働き口を提供する役目、観光客と村の人とつなぎ役割を果たしている。

※ヒアリング調査
・スケートパーク経営　A氏

■ 魅力強化策

関西随一イケてるエクストリームスポーツの“聖地”としての機能を付加

宿泊施設併設型のスケートパーク

天候に左右されずに大会や練習を行うことができる
「屋内施設」も完備したスケートパークを設置。
世界的なX-Gamesの中心拠点としてのブランディングを目指す。
パーク内の建築物の一部には廃材を使用することで、環境負荷を最小限に抑えた施設を作る。
また、地域住民を雇用することで、地域貢献と施設の収益性を両立させる。

音楽やファッションブランドとのコラボレーションイベント

エクストリームスポーツと親和性の高い音楽のライブやファッションブランドのファッションショーなどと組み合わせ、各界からの注目度の高いイベントを開催する。

地元の学校と連携した青少年プログラム

地元の小中高等学校と連携し、体育の授業やクラブ活動、放課後にX-Gamesを行うプログラムを実施する。
日本のX-Gamesのトップ選手を育てるとともに、
X-Gamesを通じて、青少年と大人の交流を促進したり、
青少年の非行防止につなげる。

■ 広報発信プラン

●日本初のX-Games公式大会を開催

国際大会が行える施設を整備し、海外では極めて人気の高いX-Gamesの公式大会を開催することで、話題化を図る。

魅I 駅前周辺エリア

■現在の課題

①公園へのゲートウェイである駅前が現在は駐車場が中心で殺伐としており万博記念公園に到着した感動を与えるお持て成しが提供できていない
②待ち合わせ・公園散策後の一服で利用できるカフェやレストランなどアイドルタイムを過ごす場所がない

■調査・ヒアリングからの考察

◎

◎

◎ 現在の総合案内所をカフェ兼ビジターセンター/もしくは前述の宿泊施設のチェックインカウンターとしての活用を検討

※ヒアリング調整中

※ヒアリング調査
・ディベロッパーA氏/スポーツ関連ブランドB氏

■ 魅力強化策 ナチュラルでヘルシーなライフスタイルを提案するスポーツ関連ブランドの旗艦店他誘致

※ヒアリング調整中

総合案内所→カフェおよびビジターセンターへ

豊かな公園体験のゲートウェイに相応しいお持て成し機能を強化。総合案内所を公園体験のワクワク感を体現できるようデザインリノベーションを図る。中には常にヒトが集い賑わいのあるカフェを兼ねたビジターセンターを設立

■ 広報発信プラン

魅J パークレンジャー

■現在の課題

①公園内での顔が見えず、公園としてのホスピタリティが足りない
②公園内の植生のインデックス機能がないため来園者はよほどの経験者でないかぎり森林を鑑賞する視点を持ち合わせていない
③卓越した技術をもつ森づくりのプロの価値が一般に伝わっていない

■調査・ヒアリングからの考察

◎地域共生も大切だがプロはプロとしての仕事を高い位置に掲げることがその職業の地位をつくり優秀な人材の確保につながる
→質の高い森管理の維持、ボランティアの参加意欲刺激に繋がる
◎森づくりを介して人間性を取り戻すことを実感してもらえるようなプログラムを準備し企業が研修などで利用しやすい枠組みを準備

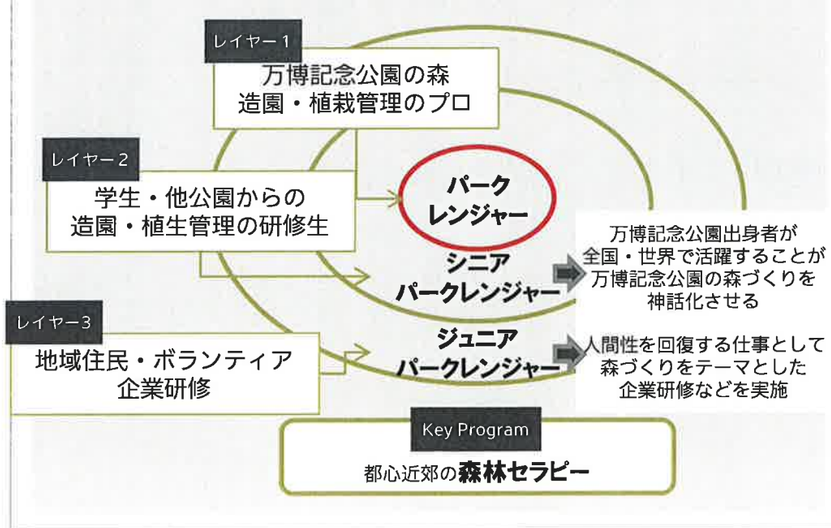
セントラルパーク
公園全体を49区画に区分し、各区画に専属の担当者を配置して植栽を管理
①担当者同士が切磋琢磨するシナジー効果により、レベルの高い管理が維持できる。②担当者が地域住民と顔なじみとなり、住民の公園への愛着度を高めている。

※ヒアリング調査
・コミュニティ運営A氏/NPO団体B氏　・有馬富士公園/泉佐野丘陵緑地公園

■ 魅力強化策

万博記念公園の森づくりのプロが森と人とを結び公園のホスピタリティーを担う、パークスカウト機能の導入

職能ごとに階層を設ける



エリア制の導入

担当エリアを明確に分けることにより、森に対する当事者意識、森づくり対する責任感と誇りを醸成

デザインユニフォーム開発

森づくりのプロが誇りを持って仕事に励み、またその仕事がカッコイイ仕事として映えるようなスタッフユニフォームやパークスカウトのロゴを開発

ブランドブック開発

森づくりに関わる人間一人一人が高い志を掲げ同じ方向を向いて仕事に取り組み仕事の質を高めていくための憲章・行動規範を作成

キャリアアッププログラム
ホスピタリティ研修など人材育成体制の導入

■ 広報発信プラン

●パークレンジャーのホスピタリティスキルをとことん磨き、来園者が実際にそのホスピタリティを体験していただくことが次のリピート・口コミを呼ぶ

●パークレンジャーの仕事をドキュメンタリーや番組に取り上げてもらえるべく戦略的に広報を仕掛けていく

交流と創造（プログラムの提供）（案）

■プログラム提供の方向性

○利用者が簡単に体験することが出来るプログラム。家族連れ、母親向け、子ども向けメニューの充実。

○プログラム提供拠点の整備。

○多様な主体（府民、事業者、企業、ＮＰＯなど）が利用者にプログラムを提供。

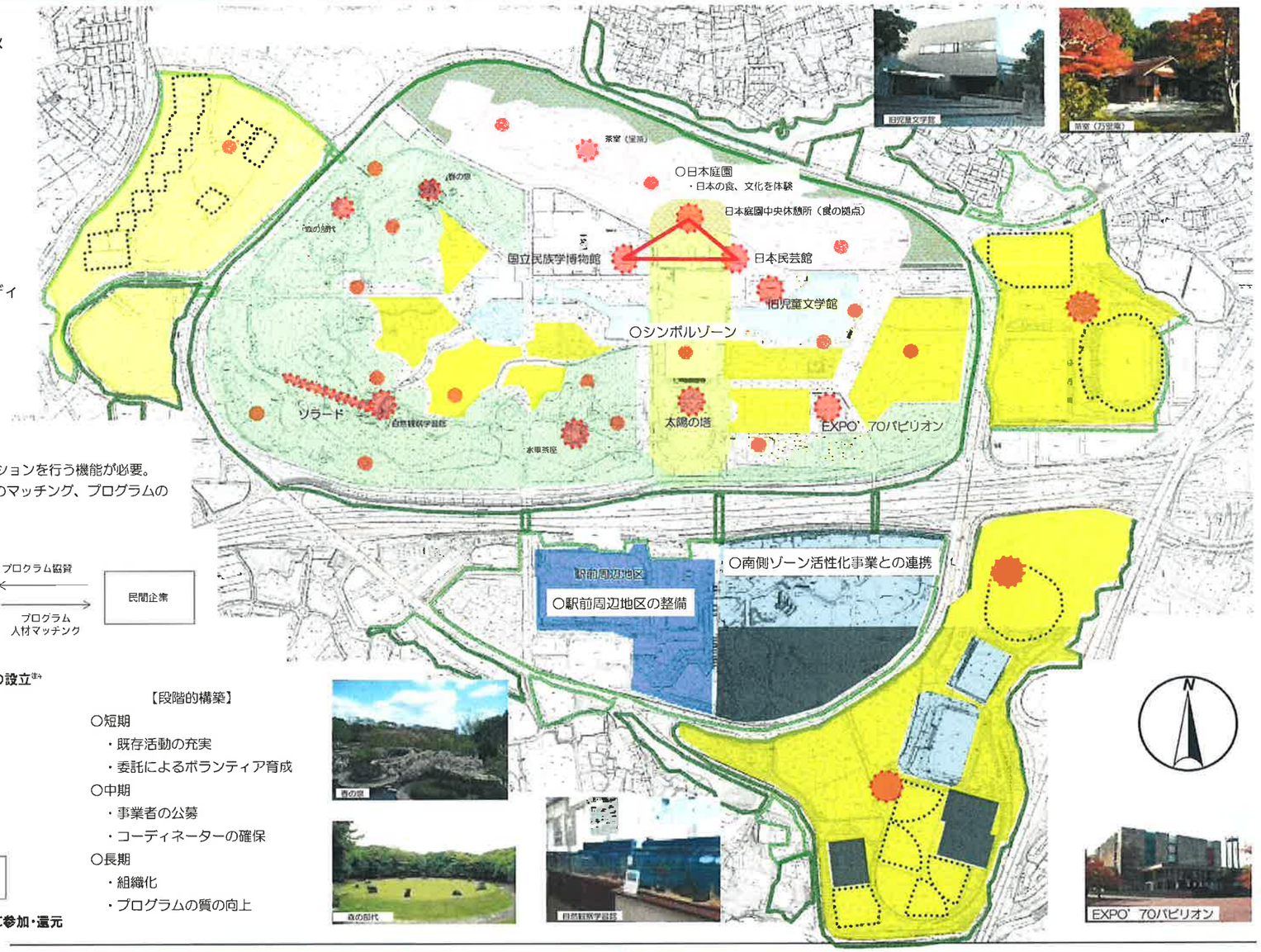
・海外旅行者も楽しむことが出来るプログラム。

・生活習慣と関連するプログラム。

・平日に提供できるプログラム。

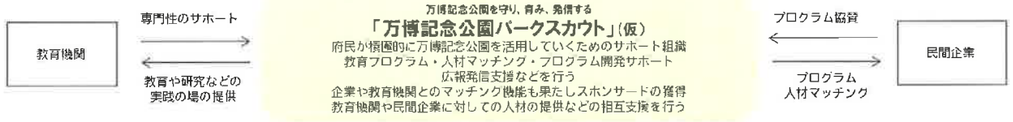
○多様な主体がプログラムを提供するため、支援機能（コーディネーター）を設置。

・人材育成、マッチング、プログラム開発サポート、広報支援、共同イベントのコーディネートなど。



■プログラム提供団体へのサポート機能

多様な主体が園内で利用者に対してプログラムを提供するためには、行政と団体の間でコーディネーションを行う機能が必要。
ボランティア・ＮＰＯへの活動についての助言、教育プログラムの開発・提供、企業とボランティアのマッチング、プログラムの開発支援などの専門知識を持った人材がこれにあたる必要がある。



府民NPO団体等の活動・交流拠点としての「万博記念公園パークスカウトハウス」の設立[注4]

○自然観察学習館を活用し、府民団体の活動のサービスステーションとして整備

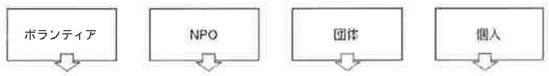
○各種府民団体の結成や団体間での交流を促したり、団体運営の相談に乗る人材を配置し、参加したい個人と受け容れ団体の仲介など各種サービスを提供できるサポート体制を整える

○プログラムコーディネーターや公園インタープリター[注1]、通訳ボランティアガイドなどの人材を育成（参考事例：東京ガス　環境エネルギー館）[注2]

○ＮＰＯ団体とも連携し、食（生産から加工までを体験）、環境、緑地管理、自然科学など様々なテーマでのプログラムを開発し実施

○南側活性化事業内の英語村、海遊館等周辺施設との連携プログラムの受け入れ先としての機能[注3]

○いずれはパークスカウトハウス自体が府民によって運営されていくことをめざす[注5]



府民・NPO・団体などは教授したサービスを公園内で実施する様々な活動を通じ公園運営に参加・還元

【段階的構築】

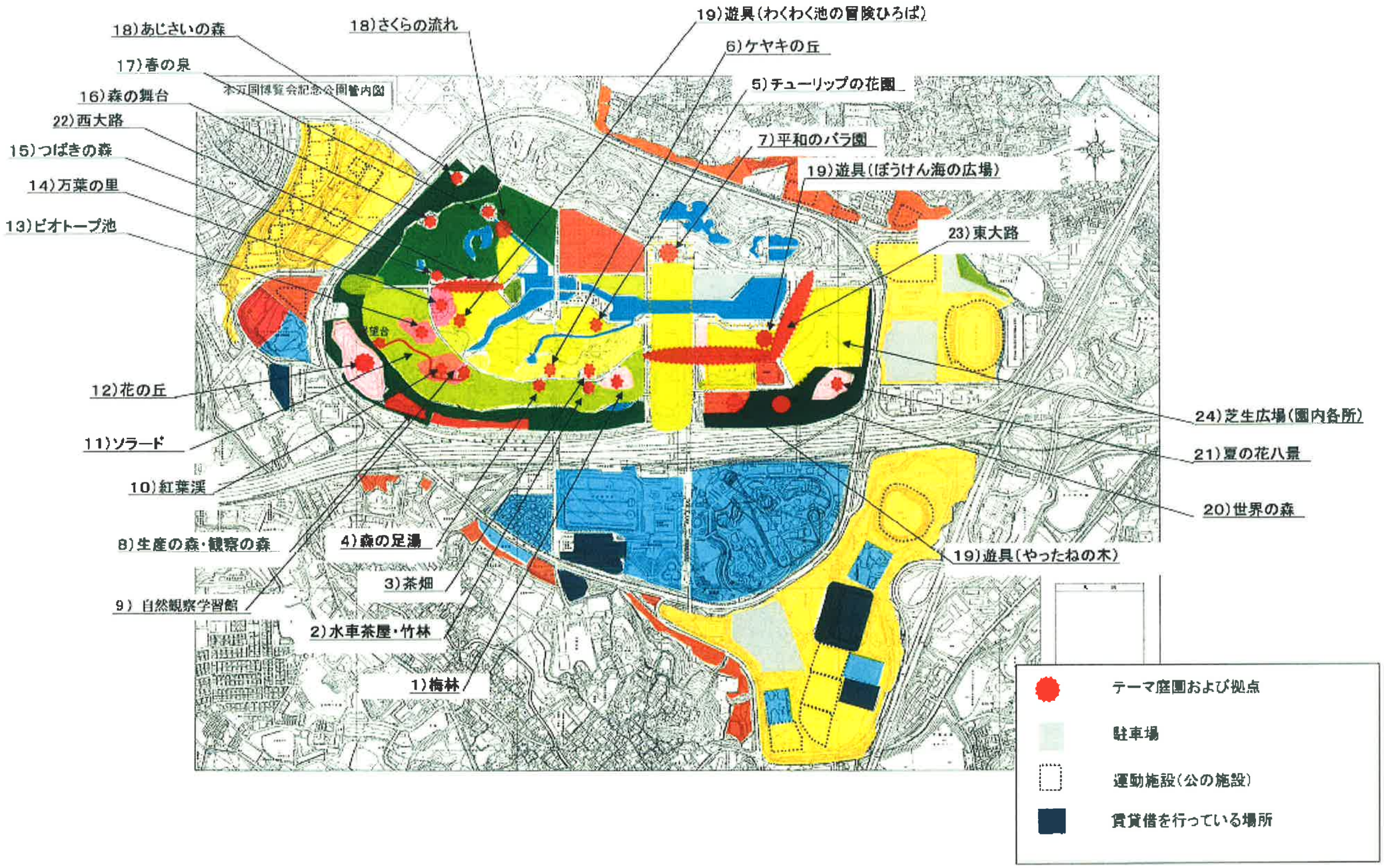
○短期
・既存活動の充実
・委託によるボランティア育成

○中期
・事業者の公募
・コーディネーターの確保

○長期
・組織化
・プログラムの質の向上

	太陽の塔（シンボルゾーン）	日本庭園中央休憩所（心字池周辺）	春の泉・森の舞台	自然観察学習館（森）	水車茶屋（茶畑周辺）	森の足湯	芝生広場	陸上競技場（外周道路）
ポテンシャルおよび諸元	延床面積　1,810㎡ ・生命の樹および「地底の太陽」を再生。	延床面積 1,413㎡ ・心字池、築山など良好な景観。	春の泉　約3000㎡泉、石積の砦、洞窟。 森の舞台　直径42mの円形芝生広場	学習館 延床面積　623㎡ 空中観察路（300m×1.2m、H=3～5m）	敷地面積　1,166㎡ 建築面積　192㎡ ・「里の景観」の中核施設。	敷地面積300㎡ 薪ボイラーとスターリングエンジンによる給湯と発電。 定員（建屋内6名、外湯9名）	上の広場　7,700㎡ 下の広場　8,000㎡ 東の広場　37200㎡ もみじ川広場	55,000㎡ 外周道路（自転車道）
提供プログラム(案)	○太陽の塔（および博覧会遺産）のガイドツアー ○芸術作品の展示	○和食（薬膳）提供 「園芸文化の発信」において詳述 ○書道、舞、着付けのミニ体験	○芸術作品の展示会 ○企業の新商品体験（福祉器具など）	○森の再生、生物の保全活動講習 ○家族（子ども）向け観察・体験会 ○ナイトツアー	○ミニイベント ○講習会（撮影・絵画など） ○公園植物の利用（つばき油、お月見、よもぎ餅など）	○季節の足湯 ○資源循環の解説 ○森の育成PR	○大規模イベント ○コンサート ○健康（ヨガ、スロージョギング等） ○新たな緑の使い方（ピクニック教室等）	○トライアスロンの（自転車＆マラソン）トレーニング支援。
プログラムの提供手法(案)	○ボランティア養成 ◎耐震改修、展示物の再生	○事業者の公募 ◎座敷、厨房用配管の設置	○事業者の公募	○事業者の公募 ○ボランティアとの協働	○プログラム提供者の募集 ◎音響設備など付加	○事業者の公募	○プログラム提供者の募集 ◎設備配管配管など	○事業者の誘致

交流と創造（テーマ庭園の管理と活用）（案）



交流と創造（テーマ庭園の管理と活用①）（案）

	1)梅林	2)水車茶屋・竹林	3)茶摘みの里	4)森の足湯	5)チューリップの花園	6)ケヤキの丘	7)平和のバラ園
設計思想	昭和 58 年度より品種数世界一を目指して整備を開始。平成10年度からは梅研究会の協力の元 210 品種まで集めたが、固地の場所不足に加え、PPV発症により苗高を全伐。現在に至る。	計画当初より「里の景」の拠点として整備。 万博開催以前の都市近郊の農村風景をモチーフに、農家風の休憩所、水車等農家の営をイメージ。	計画当初より都市近郊の「里の景」を表現するために整備された。 近年、樹勢劣化が激しくなり、H25年度より3カ年計画で土壌改良 改植を実施	樹林地管理に伴い排出される木質バイオマスの有効利用を目的に「循環市民の森づくり」としてH17～H22年度にかけて薪ボイラー、スターリングエンジンを使用したコジェネシステムを実証実験。 H18年度より、排熱を利用した足湯を開設。年間23,000人の利用者ある人気施設。	計画当初は芝生広場であったが、平成に入り、新たな花の見所として整備。 チューリップとひまわりの時期は多くの来園者でにぎわうエリア。	計画当初より、芝生広場を望む眺望を生かした休憩スペースとして整備される。	万博当時に、カナダモントリオール・ノイクシエア・ロータリークラブの呼びかけにより世界9か国から寄贈されたバラを保存している。
緒元（面積、主要品種・本数）	約5,500 ㎡の固地に128品種約 600 本を植栽 白加賀、八重寒紅、道知辺、青軸・月影、春日野、香蘭など	敷地面積 1,166 ㎡ 建築面積 192 ㎡ 昭和 48 年に移築された水車（昭和 28 年作成）が設置されている。	約 8,000 ㎡ ヤブキタを植栽。 府内最大級の茶畑である。	足湯施設 内湯定員 6 名 外湯定員 9名 新ボイラー、スターリングエンジン	約 4,000 ㎡ 春：チューリップ 25 品種 24,000 球 夏：ひまわり22品種 10,000 本	約 3,700 ㎡ ケヤキの並木 ウバメガシ、アベリア、プリペットの刈込	約 6,000 ㎡の花壇に、125 品種、約 4700 本のバラが植栽される。 市場流通の少ない古い希少品種が多いため、品種保存が緊案である。 アイリッシュミスト、タウンクライヤー、アンネのバラ、グリーンローズ等
管理内容	剪定、刈込、除草、施肥、灌水、摘果	竹林はNPOが管理（間伐・タケノコ掘りなど） 庭部分は草刈、剪定が定期的になされている。	刈込、剪定、除草、施肥、深耕、灌水	NPOが管理運営。スターリングエンジンはNPO側が所有・管理。 年間 150 日程度の稼働。 発電は足湯の照明等に利用。 先行事例として、県外の関係者及び環境省関係の視察が多い。	NPOがボランティアを募集して管理	刈込、除草	剪定（冬季・夏季）、摘花、結束替え・誘引、施肥、灌水、人力除草、芝刈、壁泉清掃、薬剤散布、など
課題	周辺樹木による日照不足。 来園者の増加による踏圧障害。 PPVの発症 冬季のみ来客多く、通年の魅力向上。	農家の庭先をイメージした設計であるが、庭の彩が少なく、周囲の樹木が圧迫し、少々陰鬱なイメージとなっている。	土壌の劣化、植栽株の劣化	利用者多く、薪ボイラーの過剰使用が続き、更新が必要。 足湯建屋等の更新必要。	チューリップ、ひまわりの時期は来園者多いが、その他の時期は閑散。	周囲の高木及び低木が繁茂しているため、眺望が無く、余り利用されていないデットスペースとなっている。 舗装の破損も多い。	品種の保全 土壌の改良
行事	2月に「梅まつり」が開催される。	梅まつり、茶摘み体験等の拠点となっているほか、自然観察の集合拠点やグループでの来園の際の集合場所としての利用も多い。	5月に「茶摘み体験」が開催される。	四季に合わせた薬草湯が人気	「チューリップフェスタ」「ひまわりフェスタ」を開催 ・ミニコンサート ・近接するカフェでスペシャルメニューを販売	無し	5月に「ローズフェスタ」開催される。
目標像	ウメの樹下で花見ができる空間づくりと演出	農家の暮らしを楽しみながら憩える里のゾーンの拠点にふさわしい景観づくりと演出	お茶の緑の絨が広がる茶畑の景観再生	木質バイオマス利用の啓発施設として、更なる利活用の拡大。	疎林に匿まれた花の展示園。 休憩スポットや隣接するパークカフェと一体的に利用できる空間づくり。 通年の花修景の検討。	芝生広場を望む眺望を生かした休憩場所	将来ビジョンシンボルゾーンにおいて検討
対応手段	ウメとサクラが混在する梅林環境を改善し、面的に梅の開花が充実する園地づくり ウメの開花期以外でも四季を通じて楽しめる園地づくり 品種の増加	周囲の杉林の下枝除去。 庭先の彩により、華やかさを演出する。 古農具等の設置により農家の雰囲気を出す。	茶畑の土壌改良及び改植	高性能薪ボイラーの導入 建屋等の改装	周辺の疎林からチューリップの花園の見通しを確保 観賞機能に加え、チューリップの花園を使う空間の演出	強度の刈込、周辺支障木の撤去、剪定等を行い、眺望を回復する。 併せて屋根つき休憩施設の整備と舗装の改修を行い、利用度の高い休憩場所を再現する。	将来ビジョンシンボルゾーンにおいて検討
提供するプログラム	ミニコンサート 臨時の茶店開店 ウメの実、梅関連製品の販売	休息 茶摘み、梅まつり等の拠点	海外の来園者も参加できる茶摘みのイベント	足湯の利用 バイオマスの先進的活用事例	スペシャルメニュー		四季イベント

交流と創造（テーマ庭園の管理と活用②）（案）

	8)生産の森・観察の森	9)自然観察学習館	10)もみじ渓	11)ソラード	12)花の丘	13)ビオトープ池
設計思想	元々もっとも奥深い密生林として整備されたが、土壌条件が悪いため樹木が育たず、昭和 57 年度より土壌改良を開始、現在は生産の森として水田、果樹園が、観察の森として各種樹木が植栽されている。	昭和 60 年 3 月に万博開催 15 周年を記念して設立。 万博記念公園新SATOYAMA宣言(H24)では、自然(緑)のエントランス機能として活用	紅葉樹を中心にした明るい樹林地と渓谷をイメージした水系が配置された自然観察の場所 自然観察学習館、ソラードと一体の樹林地	西暦 2000 年(H11 年)に、「万博開催 30 周年記念事業」として、豊かに成長した森を、これまでのように下からだけでなく樹冠や木の側面などを立体的に観察することで、来園者に新たな森の魅力を発見してもらうことを目的に、整備	元々もっとも奥深い密生林として整備されたが、土壌条件が悪いため樹木が育たず、昭和 57 年度より土壌改良を開始、昭和 63 年度よりコスモス等の植栽を始めた。現在では「花の丘」として観賞スポットとなっている。	元々菖蒲園であった場所を水生生物や昆虫などを観察できるビオトープ池に改変した。
緒元（面積、主要品種・本数）	生産の森　4,000 ㎡ 観察の森　6,000 ㎡ 境の木製風車、カブトムシ小屋	682 ㎡鉄筋Co造　1F建て 開館時間 10.00~16.00 展示コーナー 実習コーナー 森の教室	約 5,000 ㎡ ヤマモミジ、イロハモミジ、ウリカエデ、アメリカフウ、タイワンフウ等、紅葉する樹木を植栽。 中心部を流れる水系の源流は毎分 12トンの水が流れる高さ6mの滝。渓全体では約 4,500 トンの自然石が使用。	鋼材・木材による特徴的形状の回廊及び展望施設 空中観察路：延長約300m 幅1．2m　高さ3～10m 木香りタワー：13．5m 展望タワー：19．0m	約 20,000 ㎡ 内花壇部分は 10,000 ㎡。その他は芝生地。 春と秋にポピー、コスモスを植栽。	池を含め、1，381㎡ モリアオガエル、ニッポンバラタナゴ、ミドリシジミ等が生息している。
管理内容	NPOが市民参画にて管理	職員5名（非常勤職員） 2団体約 90 名のボランティアが活動。	除草、清掃、剪定	日常点検、定期点検、修繕 再塗装	草花植栽管理一式	自然観察学習館のボランティアによる管理が中心である。
課題	場所が園路より離れているため、目的を持った来園者しか訪れない。	更なる活用を進めたいが、施設規模、マンパワー共に飽和状態。	クヌギ・コナラ等の落葉樹のナラ枯れ 踏圧による土壌の劣化による樹木の衰退。 アメリカザリガニ等外来生物の侵入	利用頻度が高く、修繕が絶えない。 カメラマンのマナー対策	草花がメインのため雨水による土壌流失が著しい。 元々土壌が悪いため、高木が生育せず、木塀等の整備が困難。	施設の老朽化。 アメリカザリガニ、ウシガエル等外来生物の侵入。
行事	NPO活動にて、農作業体験や自然観察学習会等、多くのイベントが実施されている。	年間利用者 11.8 万人 各種イベント・学習会 130 回/年 「カワセミだより」発行 12 回/年 他団体開催イベント　年数回	学校遠足、自然観察学習等が多く行われる。	小学校遠足での利用は定番 新緑・紅葉期には多くのカメラマンを含む来園者が利用する。	ポピーフェスタ、コスモスフェスタの開催 ・ミニコンサート ・花苗・鉢バラ、球根などの販売 ・フラワーアレンジメントレッスン	ボランティアによる月一回の管理活動の他、自然観察学習等のフィールドとして利用されている。
目標像	都市の中で気軽に学べる環境学習・農作業体験の場	万博公園の自然へのエントランス ～自然の大切さに「出会う」「実感する」「実践する」楽しみが見つかる場所～	自立した森の中にあらわれるもみじ林、明るく樹林や滝に流れがあるもみじの渓谷	森の空中観察回廊として、今後も維持	樹林地の中に現れる、眺望の良いお花畑	北摂の自然を感じることができる自然観察園
対応手段	NPO活動のますますの活性化	職員と現ボランティアメンバーだけではこれ以上対応は困難。 更なる他団体との提携による活性化	自然観察学習館とのタイアップ	定期的な再塗装も必要	土留め等の施工	木製デッキの補修等
提供するプログラム		環境学習、研究、実験、等	環境学習、研究 紅葉の鑑賞	写真撮影 花の鑑賞	四季イベントの開催	市民参画による環境保全活動

交流と創造（テーマ庭園の管理と活用③）（案）

	14)万葉の里	15)つばきの森	16)森の舞台	17)春の泉	18)アジサイの森 桜の流れ	19)遊具
設計思想	計画当初より「はぎの原」として整備されたが、花の見所をの更なる向上のため拡充。全体で「万葉の里」とした。 萩を中心に、ススキ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ、カキ等を配置して秋の里山の風情を醸し出すという設計コンセプト。	冬季の花の見所を増やすため、当初計画で「マグノリアの林」とされていた場所にツバキを植栽。 H8年度に完成。	直径42mの舞台状になった円形芝生広場。舞台上には大小 12 個の石（敲馬石）が設置され、12支の動物を表している。	元々、子供の冒険の場として整備された。 現在は落ち着いた遺跡の雰囲気があり、休息の場となっている。 水鳥の池と隣接しており、今後は自然観察学習の場所として利用可能	昭和 59 年度より花の見所を整備するため植栽を開始し、平成6年度に現在の形となる。 踏圧障害、樹木の繁茂が顕在化したため、H23年度より再度上層部を覆う樹木の間伐、園路設置による踏圧回避を実施、現在にいたる。	来園する複数団体に対応するため、園内3か所に大型複合遊具を設置。 設置年月日 「やったねの木」H16 年度 「わくわく池の冒険ひろば」H22年度 「冒険海の広場」H23年度
緒元（面積、主要品種・本数）	約 110,000 ㎡ 平成 11 年度に整備 ミヤギノハギ、ヤマハギ、シロハギ、秋の七草	約 4,700 ㎡にツバキ、品種サザンカ、品種春サザンカが 108 品種 282 本を植栽。 ヤブツバキ、祝いの杯、岩住、桃割	約 6,500 ㎡ 平坦部は芝生地であり、斜面地は、ヒガンバナ等が植栽されている宿根草花壇がある。		約 4,000 ㎡の園地に 30 数品種 4,000 株のアジサイを植栽	
管理内容	剪定、除草、灌水等	剪定、除草、施肥、マルチング工、摘花・摘蕾、摘果、灌水	芝刈、除草、剪定、灌水等	除草 一部花壇については市民参画によりNPOが管理	剪定工（夏季・冬季）、除草、施肥、灌水、移植、マルチング工	
課題	各植栽が小区画でインパクトに欠ける反面、シバザクラが広範囲に植栽されており人気となっている。 ススキの繁茂など、内部に入ることをためらう景観となっている。	土壌が粘性土で排水性が悪く、総じて根系が貧弱。時折突然死が起こる。	かつて周囲に宿根草が植栽されており、良好な景観であったが、現在は衰退し、周囲の樹林地も被圧を強めているため、孤立したイメージである。 園路からの視認性が少なく、利用者が少ない。	利活用の手法 モルタル劣化により石の剥落が懸念	【アジサイの森】 植栽本数の回復 【桜の流れ】 植栽木の衰退、景観の悪化 春季の桜と、雨季のアジサイがメインであったが、双方衰退しつつあり、抜本的対策が必要である。	利用過多による修繕 （消耗品の取り換えが基準期間の 1/2） 利用の多いときは警備員配置必要
行事	特になし。	2～3月に「つばき祭り」を開催	特になし	自然観察学習の場	6月に「あじさい祭り」を開催	
目標像	万葉の草花をテーマとした展示園	珍しい品種のツバキが集まる展示園	森の中に広がる、不思議な舞台	人工的な環境の中に自然の力強さや豊かさを感じさせる空間づくり	樹林地の明るい木立の中に広がるアジサイの群落。 せせらぎの音を感じながら散策できる花空間	子供たちが元気に安全に遊べる魅力ある遊戯場
対応手段	シバザクラは「万葉の里」のコンセプトとは違い、今後は、徐々に他所に移植し、在来種を中心とした植栽に変更していく予定。 ナンバンギセルを保全しつつススキのメリ込みを実施。	排水性改良を主とした土壌改良	周辺樹林地の整理 宿根草の補植による、景観の再生		【アジサイの森】 補植による植栽株数の増加 【桜の流れ】 衰退したヤナギの除去とサクラの新植 アジサイの移植と補植	定期的（約 15 年）な遊具の更新。
提供するプログラム	写真撮影 花の観賞	四季イベントの開催	・アート展示	・アート展示	・あじさいまつり ・俳句コンテスト ・あじさい市	

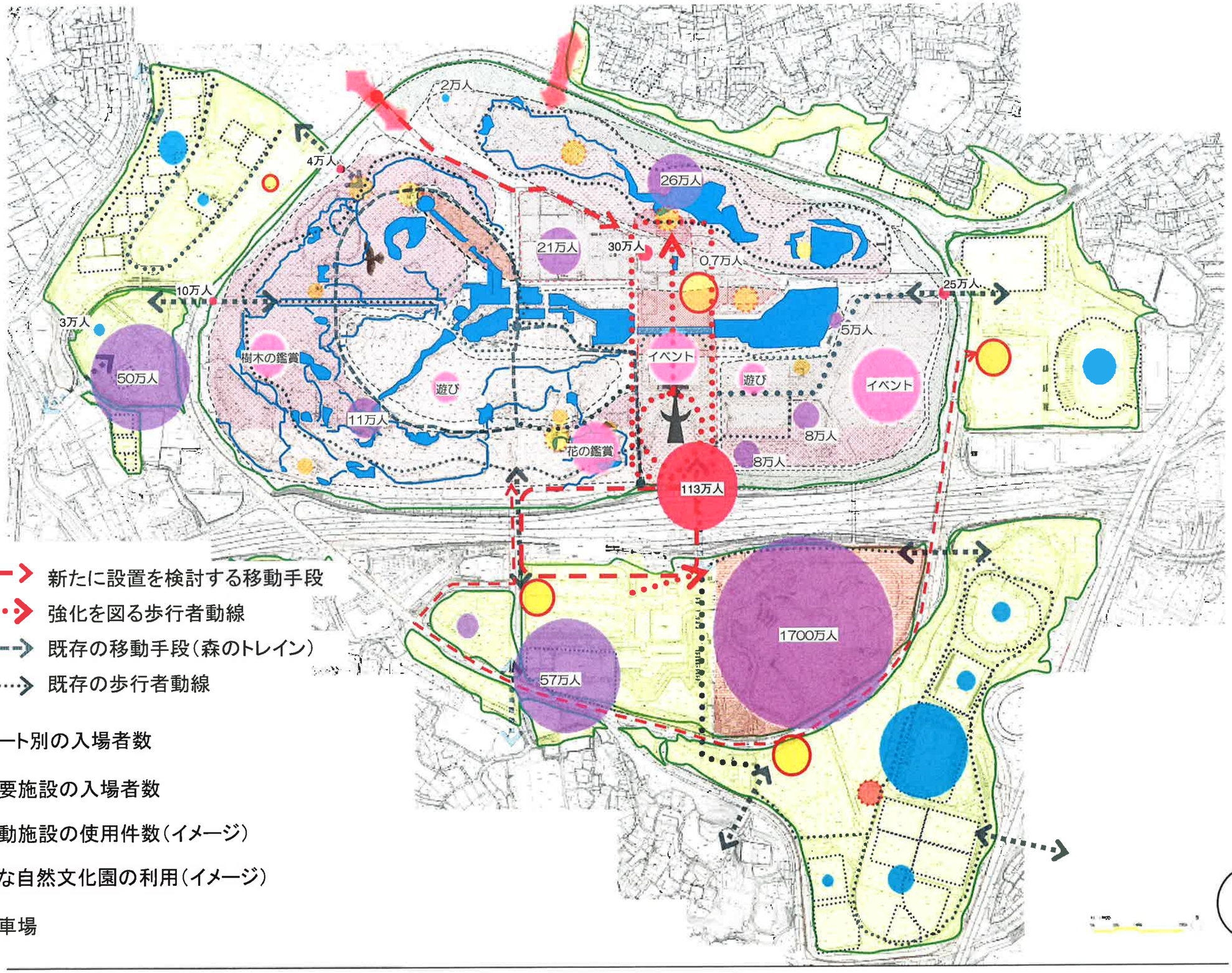
交流と創造（テーマ庭園の管理と活用④）（案）

	20)世界の森	21)夏の花八景	22)西大路	23)東大路	24）芝生地（散開林）
設計思想	万博後、世界から寄贈された針葉樹の種子を農業改良普及所が栽培、当地に植栽して「世界の森」として開設した。しかし、生育が悪く、衰退したため、各種施設を配置、コンセプトが不明瞭となっている。	元々ダッケイシュが植栽された場所を花の見所としてラベンダーの花園として整備、しかし気象が合わず早期に衰退。 平成25年度に改めて夏の花を中心とした「夏の花八景」として再整備 東の広場イベント時に休息場所として多くの人が利用。	設計当初からプラタナスの並木として整備される。 石畳と組合したプラタナスの景観が来園者に好評である。	計画当初から東口と太陽の塔をつなぐケヤキ並木として整備される。 万博公園の桜の通り抜けとして有名で、毎年新聞、雑誌に取り上げられるほど。	過剰利用による芝生の衰退 外来生物(植物)の侵入 更なる利活用ニーズの高まりと植栽保全とのバランス 水系を活用した遊び場の確保
緒元（面積、主要品種・本数）	面白自転車(有料施設) やったねの木(大型遊具) ルピナスガーデン が配置。	約9,000㎡ 多彩な草花が咲く夏の花畑となっている。	プラタナス　約120本	ソメイヨシノ　約200本	・来訪者が寝転がれる管理良好な芝生地 ・草原性の生物が生める樹林地縁の草地 ・遊び場としての親水空間整備された芝生の中の流れ
管理内容	除草	草花管理一式	除草、薬剤散布	剪定、施肥、除草 がん種病対策	・芝生管理作業において芝生の更正工種を増加し、良好な芝生空間を創出 ・保全的性格の強い水鳥の池周囲の散開林を草原性の環境に改修しエコトーンを創出 ・もみじ川及びどんぐり池からの水系に親水性を持たせ、子供たちが安全に遊べる水辺環境を創出
課題	針葉樹のTR比が高く、土壌が劣悪なため、傾いている針葉樹が多い。 北風がきつい台風時に倒木の恐れ大。	周囲の樹林地が園内を圧迫しているため、下枝除去、間伐を行い明るい林床を持つ樹林地に囲まれた花壇地として環境改善中	プラタナスの大径化。根系が浅く、倒壊の可能性がある。かつて頂部を剪定し安定化を図ったが、景観の悪化を理由とした苦情が多発した経緯がある。	劣悪な土壌のため、根系が異常でがん種病の発生が良くみられる。 植栽後40年が経過し、樹木の勢いが落ちつつある。	
行事	特になし	特になし		4月「桜まつり」「陶器市」 8月・12月「イルミナイト」	広場の専用使用により各種団体がイベントを実施
目標像	夏の花八景への導入部としての林床に彩ある樹林地	広がりある芝生地とボーダーの草花による明るい夏の庭	美しいプラタナスの並木道	万博公園を代表とする桜の通り抜け	
対応手段	針葉樹林の風倒対策 林床草花の植栽・育成	周辺の樹林地を間伐し、明るい林床へと変換。庭園全体の環境改善を継続	リイヤー支柱によるプラタナスの安定化	土壌改良、外科治療による桜の樹勢回復。	・特定外来生物、侵入雑草の防除 ・環境改善の実施計画を策定 ・踏圧障害の改善 ・踏圧に耐える芝生土壌環境に改善 ・水鳥の池沿いにおいて、在来種主体の草地環境整備の実施 ・親水施設・水生生物生息環境の整備 ・子供が遊べる親水性機能と水生動物の生息地をもみじ川とどんぐり池からの水系に創出
提供するプログラム	ルピナス等春の花の鑑賞 写真撮影	花の鑑賞 写真撮影	写真撮影 紅葉の鑑賞	四季イベント	大規模イベント(各種団体による)

外周道路沿いの緑地の運営方針（案）

目標像	・斜面緑地と施設緑地が一体化した、高い緑被率・緑視率の外周緑地帯の形成 ・良好な植栽管理による、美しい緑地の形成
対応手段	・斜面緑地の保全基準、平地は施設緑化基準の設定 ・NPO管理地の現状の良好な管理状態の維持 ・スポーツ施設等での緑化区域の設定、各施設管理運営者による一元管理

園内移動手段の確保（案）


2万人
4万人
26万人
21万人
30万人
0.7万人
10万人
25万人
3万人
5万人
樹木の鑑賞
イベント
遊び
イベント
50万人
遊び
11万人
8万人
花の鑑賞
8万人
113万人
1700万人
57万人
新たに設置を検討する移動手段
強化を図る歩行者動線
既存の移動手段（森のトレイン）
既存の歩行者動線
ゲート別の入場者数
主要施設の入場者数
運動施設の使用件数（イメージ）
主な自然文化園の利用（イメージ）
駐車場
N

Ⅱ.公園運営手法について

Ⅱ-1　海外事例紹介（ニューヨークの公園運営手法視察の報告）

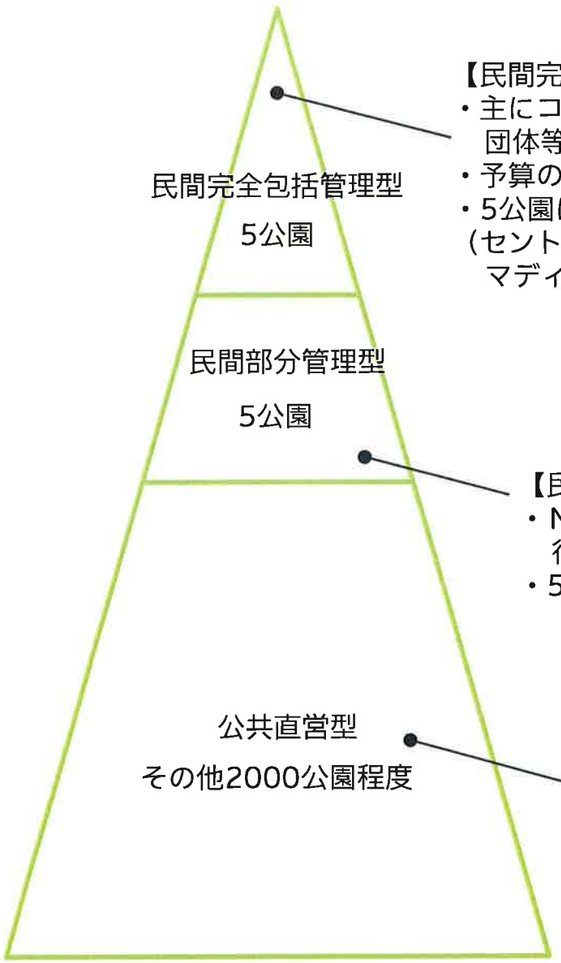
Ⅱ-2　万博記念公園運営体制(案)

Ⅱ-1　海外事例紹介（ニューヨークの公園運営手法視察の報告）

Ⅱ-1 -a.公園運営の状況と体制：ニューヨーク市公園局ヒアリング

■公園管理の状況

・ニューヨーク市の約2000の公園運営は、運営主体の違いによって3層構造に分かれている。（下図参照）
・民間完全包括管理・民間部分管理型の公園は5公園ずつと、少数であるが、今後は民間完全包括管理型が増えることを市は望んでいる。
・ＮＰＯ団体等との契約内容は、各公園の状況に合わせて決めている。
・公園局としては5年ほど前から公園のブランディングを行っており、ロゴマークやサインの統一などの取組を始めている。



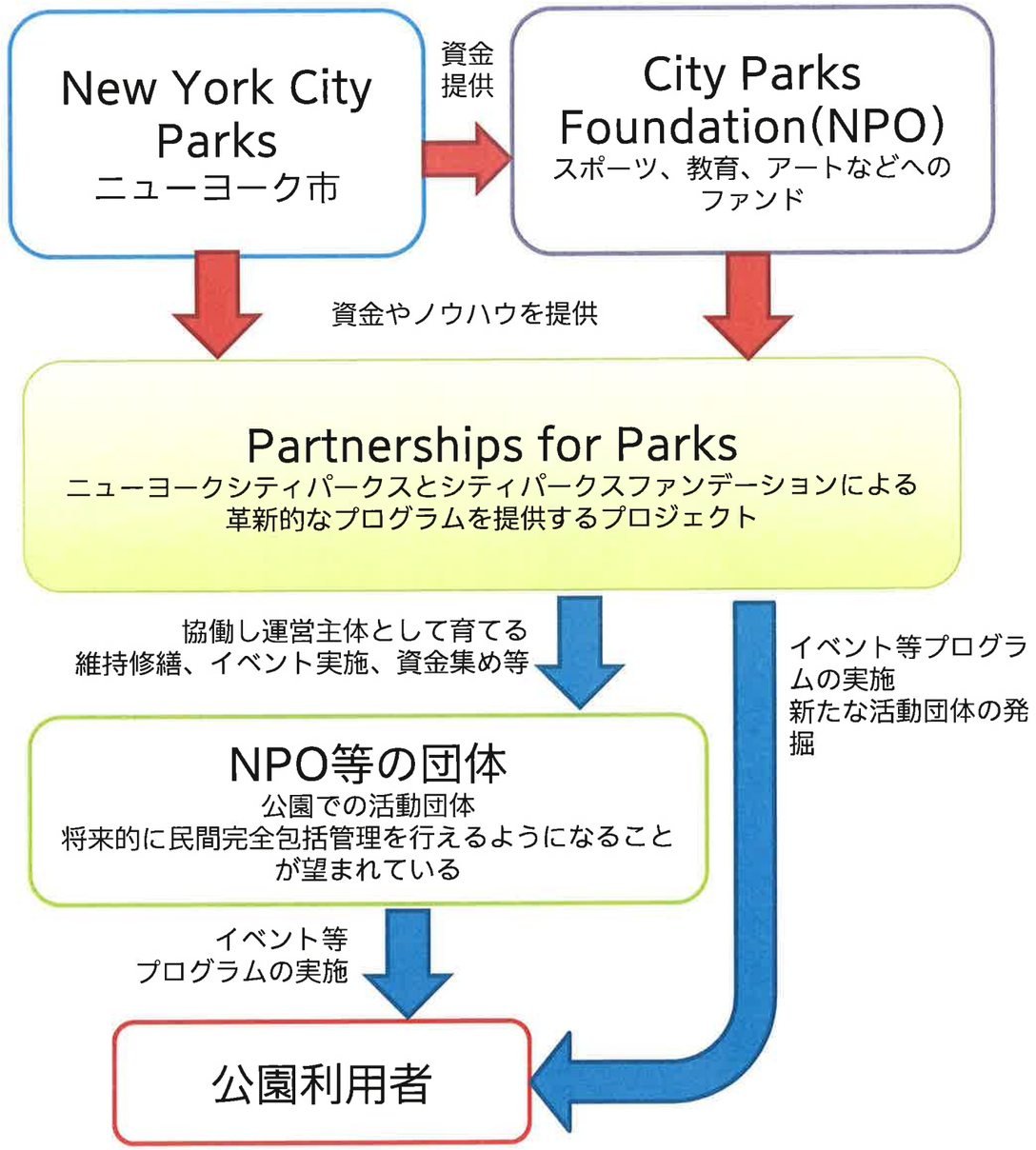
【民間完全包括管理型】
・主にコンサーバンシー（保護機構）と呼ばれるＮＰＯ団体等がすべての管理運営を行っている公園
・予算の確保も税金に頼らず自ら行う
・5公園に対し5団体が参画
（セントラルパーク、ブライアントパーク、ハイライン、マディソンスクエアパーク、ランドールズパーク）

【民間部分管理型】
・ＮＰＯ団体等が限定的な裁量のもと管理運営を行っている公園
・5公園に対し16団体が参画

【公共直営型】
・市が直営で管理運営している公園
・ボランティア等が部分的に管理運営に参画
・その他2000あまりの公園

■公園プロジェクト実施体制

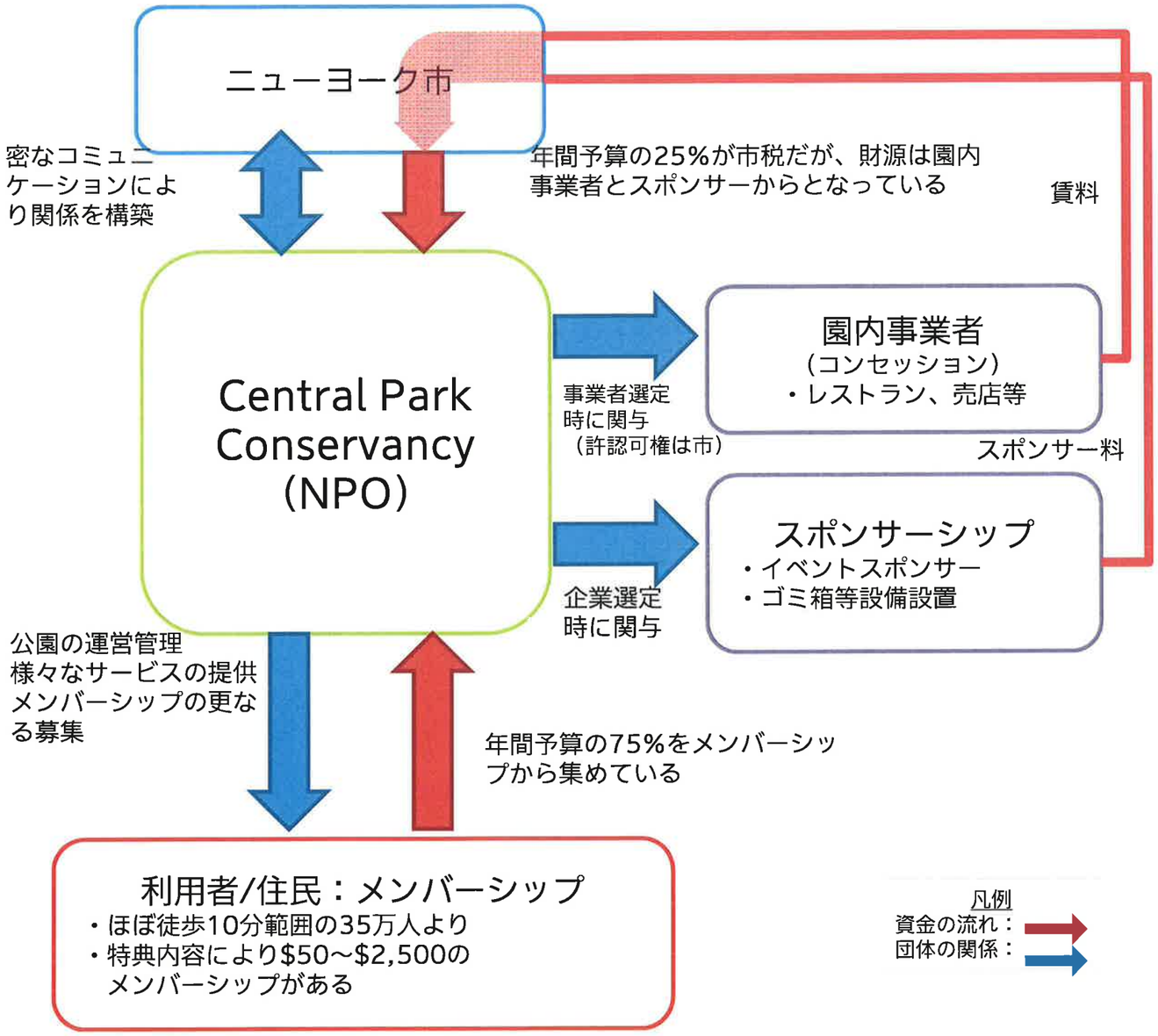
・ＮＰＯ団体等を育成するための体制を整えている。（下図参照）
・ニューヨーク市と、自ら資金を集めるファンドが共同でプロジェクトを実施し、公園利用者へのプログラムを行うとともに、NPO団体の育成や新たな活動団体の発掘等を750以上の公園で行っている。



Ⅱ-1 -b.セントラルパーク運営手法：セントラルパークコンサーバンシーヒアリング

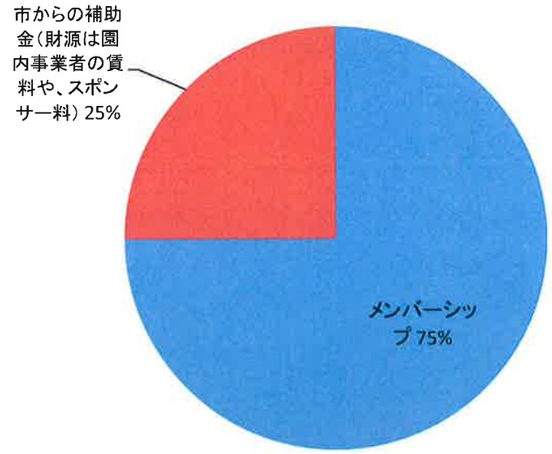
■公園運営スキーム

- NYで最初のプライベートな公園運営組織として、セントラルパークコンサーバンシーが、公園の質を向上させたいという考えのもと活動している。
- 緑を最優先する、自分たちの哲学に則り活動している。
- メンバーシップへのサービスは充分用意するが、要望を受けることはそれほどない。
- 昔は市が直営で運営していたが、市の力が下がるとともにNPOへ役割が移行し、現在では完全にコンサーバンシーが運営を行っている。
- 公園内のエリアを４９に分けて、それぞれに担当がつき日々の管理を行っている。

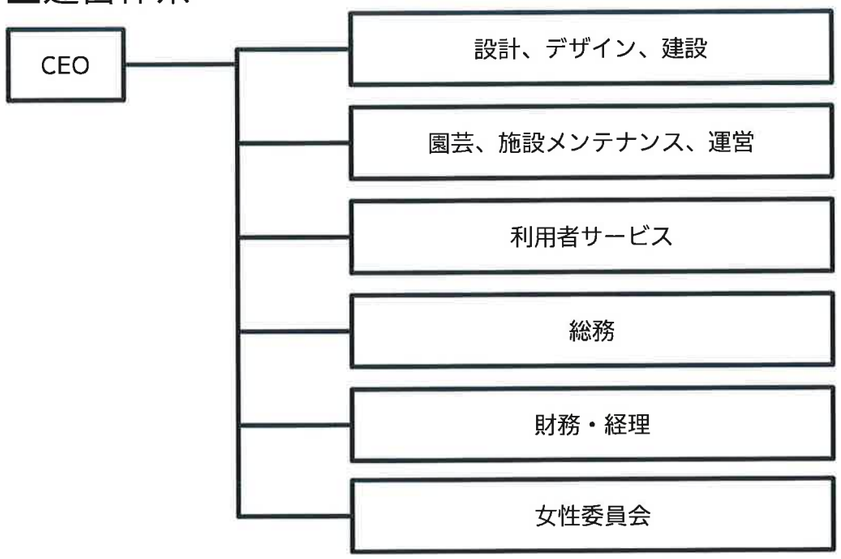


■年間予算概要

- 2013年実績
- 年間収入は約57億円



■運営体系



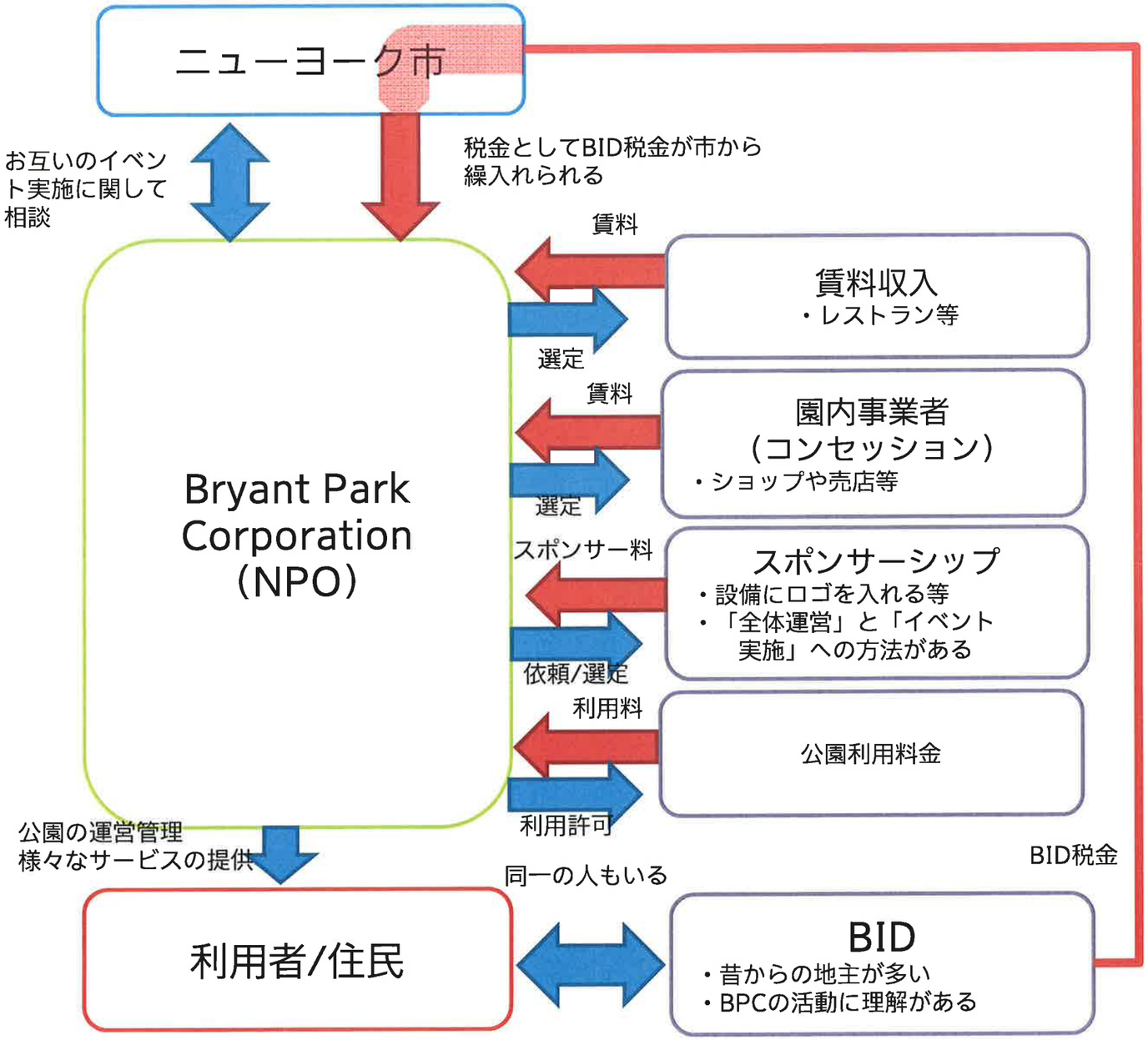
■公園管理内容に対する評価方法

- 市公園管理局の承認
- パブリック・レビュー（公的審査会）の義務付け
- 市、周辺地域、民間企業及び慈善団体等で構成される受託委員会により、公園利用者や周辺地域コミュニティからの意見を求める
- 計画案を、コミュニティ・ボード、ランドマーク保存委員会及び芸術委員会などにも提出し、地域住民からなる諮問委員会とともにプログラムの企画実施に当たる

Ⅱ-1 -c.ブライアントパーク運営手法：ブライアントパークコーポレーションヒアリング

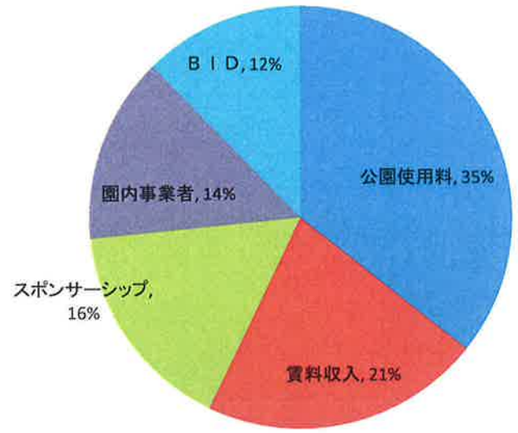
■公園運営スキーム

- ブライアントパークコーポレーションは多様な方面から資金調達を行っており、独立採算で公園を運営している。
- コンセッションのコントロールもブライアントパークコーポレーションが行っている。
- 予算に対するスポンサーシップの影響が大きいが、公園の運営方針に合わないスポンサーは断ることもある。事前に方針を共有し、方針に合意の上で契約している。
- 寄付はあえて受け取らず、ボランティアの協力も受けず、運営している。

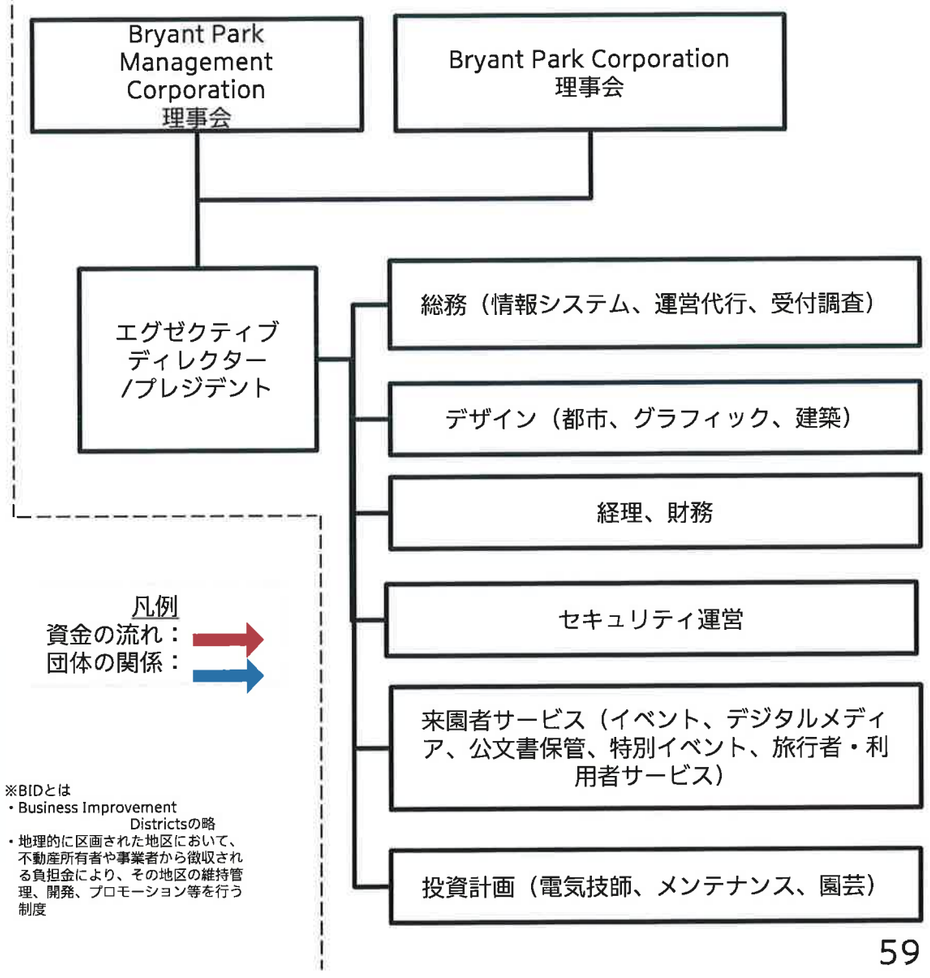


■年間予算概要

- 2012年実績
- 年間収入は約9億円



■運営体制



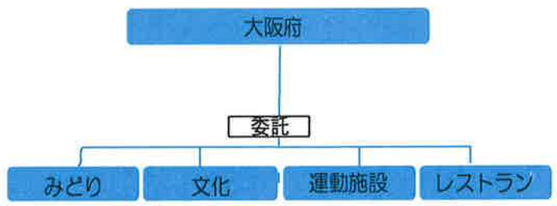
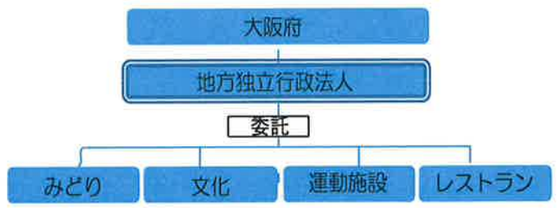
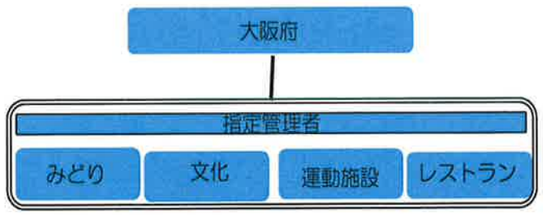
※BIDとは
・Business Improvement Districtsの略
・地理的に区画された地区において、不動産所有者や事業者から徴収される負担金により、その地区の維持管理、開発、プロモーション等を行う制度

Ⅱ-2　万博記念公園運営体制(案)

Ⅱ－1 －a.運営体制の比較

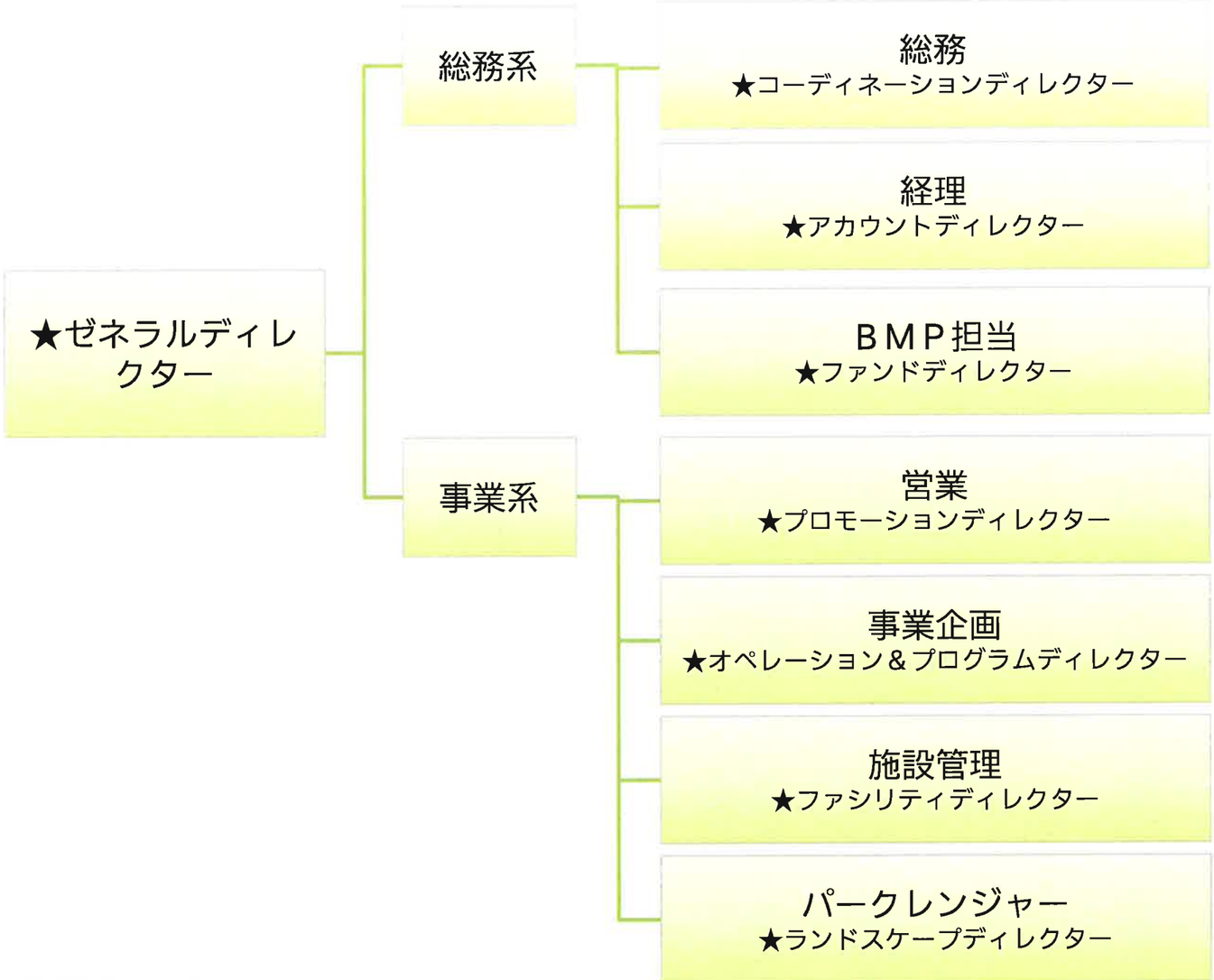
想定される運営体制として、直営、地方独立行政法人、指定管理者制度に関して、比較検討を行った。

■公園の運営体制　比較一覧表

	直営	地方独立行政法人 （一般地方独立行政法人）	指定管理者制度（長期）
概要	地方自治体が自ら公園を運営する体制。部分的に民間事業者へ業務の委託を行いながら運営を行う。	地方独立行政法人が当該施設を自治体から出資を受けて管理する制度。施設の設置や管理は法人が自ら行う。整備と運営を同一事業者が行うため、ソフト・ハードが連携した事業展開が可能。	株式会社などの営利企業、財団法人、NPO法人、市民グループなどの団体が、運営を包括的に代行する制度。
財産	土地、施設、基金は府が所有。	土地、施設、基金を法人が所有。	土地、施設、基金は府が所有。
事業期間	－	長期的な事業展開、設備投資が可能。	20年程度
他団体への土地貸借	府が公募する。	法人が行う。	府が執行する。
改修・整備	**府**が行う。 従来方式による設計と施工の分離発注のため、一括実施と比べるとコスト増となる可能性がある。	**法人**が行う。 従来方式による設計と施工の分離発注のため、一括実施と比べるとコスト増となる可能性がある。	**府**が行う。 従来方式による設計と施工の分離発注のため、一括実施と比べるとコスト増となる可能性がある。
維持管理・運営	**府**が行う。 自治体自身が運営するため、事業の継続性は高い。	**法人**が行う。 長期安定的に運営できるため、事業の継続性は高い。	**民**が行う。 民間による長期の運営により、効率化が期待できる。
柔軟な運営体制の構築	公務員人事や官庁会計等の制約がある。	独自の意思決定が可能となるため、新たなサービスの提供など機動性・弾力性のある運営が可能となる。	民間の裁量の範囲においては可能である。民間のノウハウを導入した運営が可能。多彩なイベントやサービスの提供が図られる。
効率性	・大阪府が直接委託事業者を指導監督  	・独法から民間事業者への業務委託が必要であり、独法は中間的組織となる  	・大阪府が直接指定管理者を指導監督 
指導監督	○直接運営	○間接的 ・理事長、監事の任命 ・中期目標策定 ・業務実績評価（評価委員会）	○直接的 ・府で指定した園長など監督、助言者の任命が可能 ・業務実績評価（評価委員会） ・府の職員による指導監督 ・府による利用者運営協議会の設置
法令	・委託工事の発注は単年度の競争入札となるため、ノウハウを蓄積した継続的な事業実施が困難。	・万博記念公園に適用するためには、本件に該当する業務を地方独法の業務対象として政令で定める必要がある。 ・法人の人員体制において、マネジメント能力のある人材が求められる。 ・独法では国有地の無償貸付けは不可能である。	・現行法令で可能
府の役割	全ての管理運営	目標設定と管理運営のモニタリング	仕様の設定と管理運営のモニタリング

Ⅱ-1 -b.全体スキーム（案）　指定管理者の組織体系、役割（案）と公募の方法

■組織体系（案）



■役割（案）

- 総務業務全般
- 大阪府との調整
- 万博記念公園審議会との調整
- 公園管理運営協議会の運営
- 園内外事業者との調整

- 予算会計全般
- 管財

- ＢＭＰとの調整

- 営業推進活動
- 近隣、県内、国内、海外への広報宣伝

- イベント等公園内プログラムの企画運営
- 園内施設の運営

- 施設管理
- 施設整備
- インハウスデザイナーによるプロデュース

- ゾーンごとに専属パークレンジャーを配置した緑地管理
- シニア・ジュニアパークレンジャーの統括、育成
- ランドスケープデザイナーによるプロデュース

■公募の方法

全体スキームが成り立つためには指定管理者の役割が重要になる。よって、これらの役割を十分に果たすことのできる指定管理者を選定するための公募の方法として、以下の３条件が想定される。

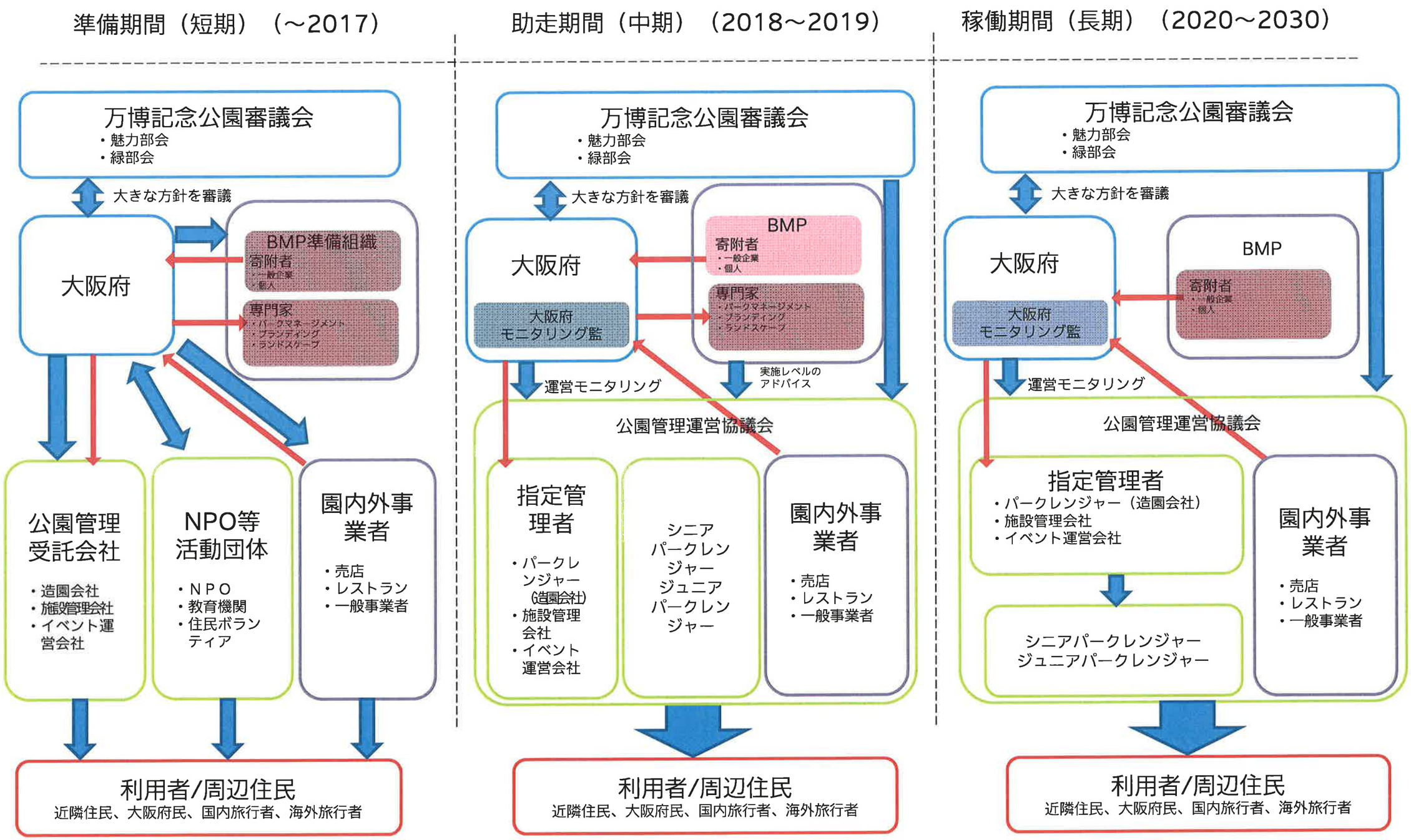
1．上記組織体系と役割を指定管理者の応募要件とする。また、ゼネラルディレクターと各担当ディレクターの実績を応募時の評価対象することで、実効性の高い提案者と協定を結ぶことができる。
2．ゼネラルディレクターと同位に大阪府からの専門家の派遣を配置し、組織に対するガバナンスを効かせることで役割が果たせるよう総合的なアドバイスを行う。
3．３年程度でモニタリングを行い、その評価によっては契約を解除する条項を契約に記載することも検討。

Ⅱ-1 -c.全体スキーム（案）

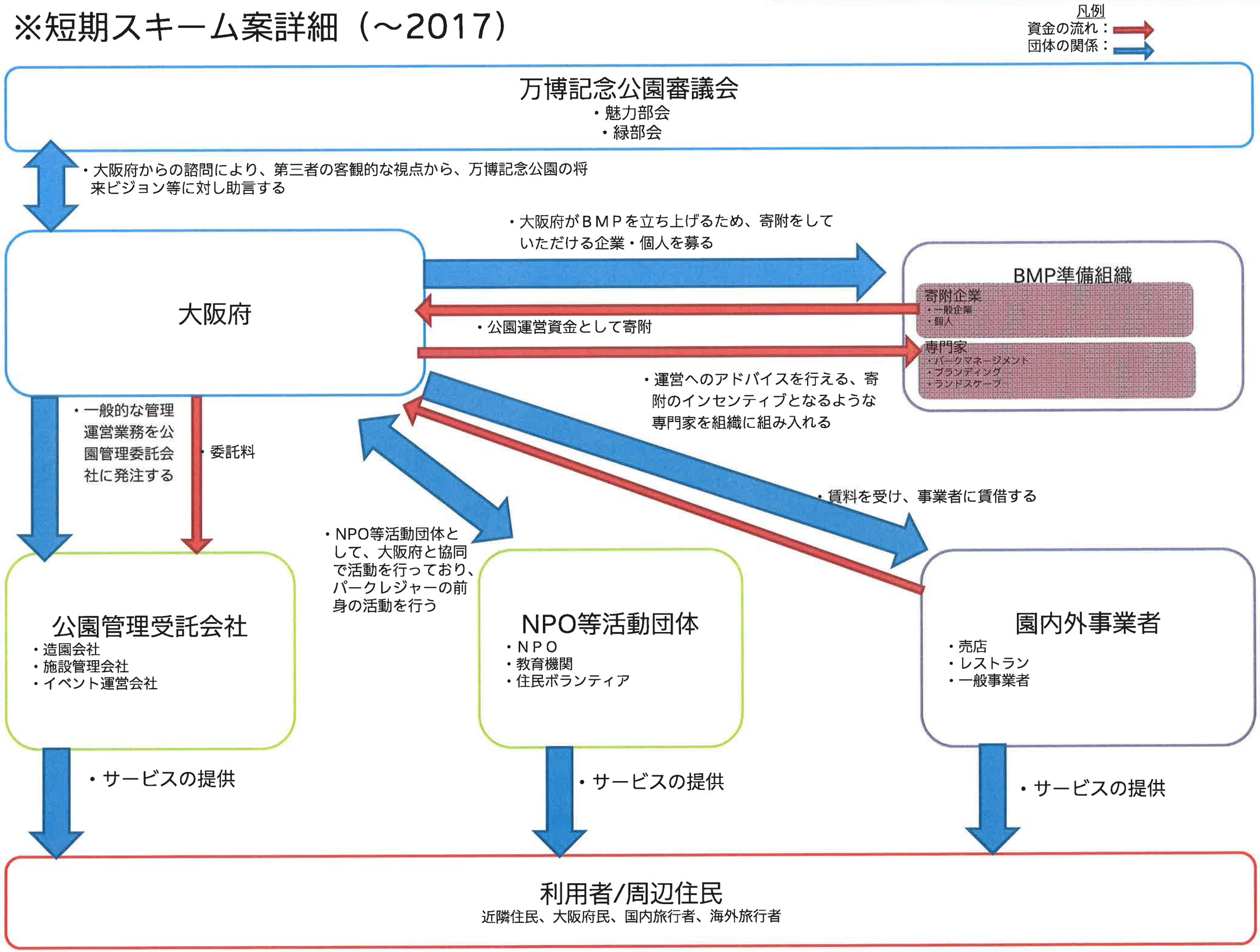
※BMP（Brand Management Partners）とは
- 万博記念公園の運営資金の調達と万博記念公園のブランディングを目的に組織体を形成し、万博記念公園BMPが運営のモニタリングという形で公園運営に 参画する仕組み案
- 万博記念公園に関わることで、何らかのメリットを享受できる利害関係者とパークマネジメントやブランディングの専門家で構成されることを想定する
- 利害関係者については、万博記念公園の運営を支援または関与しているという事実を当該団体の広報に活用する、或いは万博記念公園の持つ様々なコンテンツ（園内の風景画像、施設、ロゴ等）を当該団体の各種商品等に活用する等、万博記念公園の持つ価値や資産を活用する代わりに、万博記念公園に何らかの対価（資金、ノウハウ、人員等）を提供する仕組み案
- 万博記念公園BMPの支援により万博記念公園の価値が向上すれば、それを支援する万博記念公園BMP参加団体の価値も向上し、さらには来園者や府民の参加企業に対するロイヤリティが向上することが想定される。

2020年の長期の際のスキームをめざし、現状の運営体制から、準備期間（短期）、助走期間（中期）、稼働期間（長期）と変化していくことを想定し、期ごとの全体スキーム案を検討した。

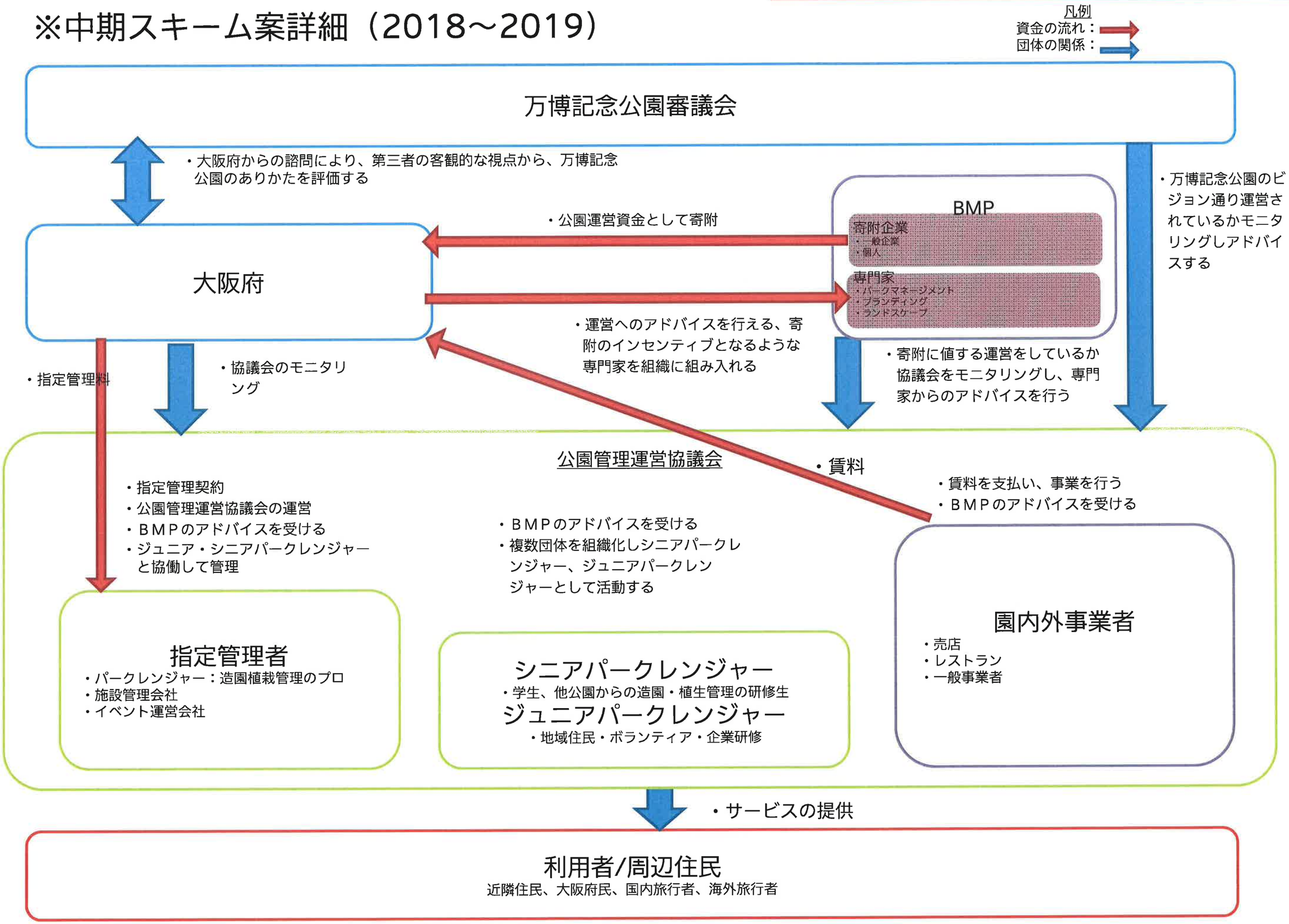
凡例
資金の流れ：
団体の関係：



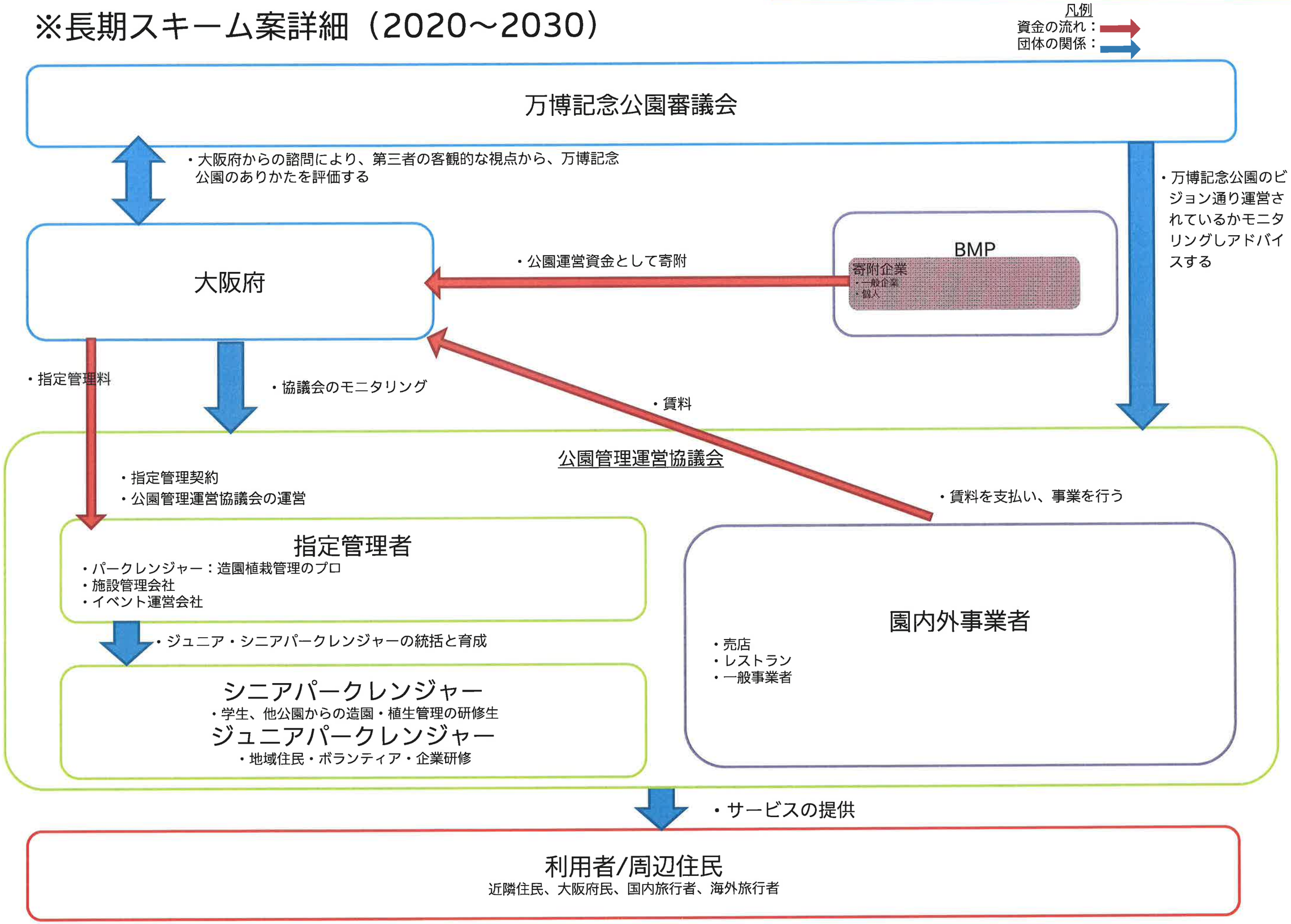
※短期スキーム案詳細（～2017）



※中期スキーム案詳細（2018～2019）



※長期スキーム案詳細（2020～2030）



※各組織の体制と役割：指定管理者(万博記念公園モデル)

短期、中期、長期のスキームに対し、それぞれの関係団体がどういった役割を分担し、どのような体制で運営される必要があるのかを検討した。万博記念公園審議会、大阪府、指定管理者、パークレンジャー、BMP、事業者に関し、役割と体制（案）を対象とし検討した。

	【万博記念公園審議会】	【大阪府】	【指定管理者】
短期	・大阪府からの諮問により、第三者の客観的な視点から、万博記念公園の将来ビジョン等に対し助言する	・一般的な管理運営業務を公園管理委託会社に発注する ・大阪府がＢＭＰを立ち上げるため、寄附をしていただける企業を募る ・既存の活動しているＮＰＯ等の団体と共同で事業を行う ・賃料を受け事業者に土地を賃借する	－
中期	・大阪府からの諮問により、第三者の客観的な視点から、万博記念公園のありかたを評価する ・万博記念公園のビジョン通り運営されているか協議会をモニタリングしアドバイスする	・協議会のモニタリング （指定管理契約、ＮＰＯ共同事業、賃料を受け事業者に賃借） ・ＢＭＰから寄附を受け運用	・指定管理事業として利用者/周辺住民へのサービス提供 ・公園管理運営協議会の運営 ・協議会を通しＢＭＰのアドバイスを受ける ■パークレンジャーの役割としては、ジュニア・シニアパークレンジャーと協働して管理
長期	・大阪府からの諮問により、第三者の客観的な視点から、万博記念公園のありかたを評価する ・万博記念公園のビジョン通り運営されているか協議会をモニタリングしアドバイスする	・協議会のモニタリング （指定管理契約、賃料を受け事業者に賃借） ・ＢＭＰから寄附を受け運用	・指定管理事業として利用者/周辺住民へのサービス提供 ・公園管理運営協議会の運営 ■パークレンジャーの役割として、ジュニア・シニアパークレンジャーの統括と育成

	【ジュニア・シニアパークレンジャー】	【ＢＭＰ】	【園内外事業者（土地賃借）】
短期	・NPO等活動団体として、大阪府と協同で活動を行っており、パークレンジャーの前身の活動を行う	・大阪府によって組織化される ・運営へのアドバイスを行える、寄附のインセンティブとなるような専門家を組織に組み入れる	・大阪府から賃貸借契約により事業を行う
中期	・ＢＭＰのアドバイスを受ける ・複数団体を組織化しシニアパークレンジャー、ジュニアパークレンジャーとして活動する	・寄附に値する運営をしているか協議会をモニタリングし、専門家からのアドバイスを行う ・公園運営資金として寄附 ・運営へのアドバイスを行える、寄附のインセンティブとなるような専門家を組織に組み入れる	・大阪府から賃貸借契約により事業を行う ・協議会を通しＢＭＰのアドバイスを受ける
長期	・パークレンジャーの統括のもと、様々な公園管理活動を実施する	・公園運営資金として寄附	・大阪府から賃貸借契約により事業を行う

Ⅲ.事業計画について

事業計画

	短期計画			中期計画		長期計画		
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021～	2031～
目標来場者数	200万人	210万人	220万人	230万人	240万人	300万人	350万人	400万人
事業者への賃借状況	―			第一段階 誘致地域のうち１０％ 程度賃借		第二段階 ２０％		第三段階 ５０％
実施イベント・整備計画	●将来ビジョンの具体化整備 ○太陽の塔リニューアル完了 ○指定管理者制度開始			●万博５０周年記念整備		○万博５０周年記念イベント 増加	●万博５５周年記念整備 ○万博５５周年記念	●万博６０周年記念整備 ○万博６０周年記念
運営体制	直営			指定管理者制度		指定管理者制度 （万博記念公園モデルの確立）		
公園ブランディングの方針	ハード整備を中心としたブランディング			ソフト施策を中心としたブランディング		持続的なブランドの維持		

○・・・イベント
●・・・整備

１２億投資
（府の予算）

利益を積み立て

５０周年イベントに向けて
魅力作りに集中投資

増加した収入分を魅力づくり用
経費として投資、積立分を使用して
周年記念イベントへ集中投資

利益を積み立て